

第2次長久手市食育推進計画 調査シート

計画の体系

(1)食を通じて健康な体を作ります

P 1～5

(2)食を通じて豊かな心を育みます

P 6～9

(3)食を通じて環境に優しい暮らしを築きます

P 10～12

(4)食育を支える取組を推進します

P 13～15

【令和3年度の方針】

| | |
|----|----------------|
| 継続 | 現行どおり、取組を継続する |
| 充実 | 取組内容の充実を図る |
| 改善 | 取組内容の見直し、改善を図る |
| 縮小 | 取組の規模を縮小する |
| 廃止 | 取組を廃止する |

【取組の評価】

| | |
|---|-----------------------|
| A | 計画どおり実施し、目標を達成 |
| B | 計画どおり実施し、目標に近づき効果を感じる |
| C | 実施したが、目標達成にはほど遠い |
| D | 実施できていない |

(1)食を通じて健康な体をつくります

1-1. バランスのとれた規則正しい食生活の実践

| 項目 | 概要 | 担当課 | 関連する数値目標 実績 | 前年度(令和2年度)の取組実績と令和3年度実施方針 | | | 現行計画の実績と評価 | | | | |
|---|--|------------|---|---------------------------|--|---------|---|-----------------------------|---|----------------------|---|
| | | | | 取組実績 (施策・事業の実施状況) | 令和3年度の 実施方針 | 左記の判断理由 | 連携している市民団体 | 過去5年度を振り返って 取組の成果と残された課題 | 評価 | 今後の方向性 (充実・改善の方向) | |
| ア 妊産婦 や乳幼児 における 食育の推 進 | 「早寝・早起き・朝 ご飯運動」を推進し ます。 「妊産婦のための食 生活指針」等を利用 した食育の普及啓発 を行います。 乳幼児の発達段階に 応じた「乳児の食事 Q&A」等を利用した 食育の普及啓発を行 います。 食事を通じた親子の 心の絆の深まりも視 野に入れた栄養指導 の充実を図ります。 | 子ども未来 課 | ①食育の関心の向上 ・食育に関心のある市民 (保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% ②朝食の欠食割合の減少 (児童・生徒) 目標値……0.0% H30 1.4% R02 0.3% | 令和2年度 | 保育園の園だよりなどで、保護者向けに啓発を行った。 | 継続 | 年最低6回園だよりに掲載することで、保護者への啓発を実施しているため。 | 食生活改善推進委員会 | (取組の成果) 保育園の園だよりで啓発を行 うことで、保護者から朝ご飯 に関する質問が保育士に寄せ られるなど、一定の啓発がで きた。 (残された課題) 運動に興味を得られない家庭 もあるため、啓発の方法等の 検討が必要 | B | 年一回の園だよりへの掲載だ けでなく、プールの実施や午 睡の有無など、保育園での過 ごし方の違いによる、家庭で の過ごし方について、保育園 全体として周知していく。 |
| | | | | 令和元年度 | 保育園の園だよりなどで、保護者向けに啓発を行った。 | 継続 | 年一回園だよりに掲載することで、保護者への啓発を実施しているため。 | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 保育園の園だよりなどで、保護者に向けて啓発を行った。 | 継続 | 年一回園だよりに掲載することで、保護者への啓発を実施しているため。 | | | | |
| | | | | 平成29年度 | 保育園の園だよりなどで、保護者に向けて啓発を行った。 | 継続 | 年一回園だよりに掲載することで、保護者への啓発を実施しているため。 | | | | |
| | | | | 平成28年度 | 保育園の園だよりなどで、保護者に向けて啓発を行った。 | 継続 | 保育園の園だよりなどで、保護者に向 けて啓発していく。 | | | | |
| | | | | 令和2年度 | 妊婦とその夫を対象にハバママ教室を行いました。 実施回数と参加人数は以下の通り。 R02：10回、143人 第1子を持つ保護者を対象に離乳食教室を行いました。実施回 数と参加人数は以下の通り。 R02：10回、172人 | 継続 | 各種教室で普及啓発ができていた ため、今後も継続して実施していく。 | | | | |
| 令和元年度 | 妊婦とその夫を対象にハバママ教室を行いました。 実施回数と参加人数は以下の通り。 R01：11回、127人 第1子を持つ保護者を対象に離乳食教室を行いました。実施回 数と参加人数は以下の通り。 R01：10回、232人 | 継続 | 各種教室で普及啓発ができていた ため、今後も継続して実施していく。 | | | | | | | | |
| 平成30年度 | 妊婦とその夫を対象にハバママ教室を行いました。 H30：12回、156人 第1子を持つ保護者を対象に離乳食教室を行いました。 H30：12回、224人 | 継続 | 各種教室で普及啓発ができていた ため、今後も継続して実施していく。 | | | | | | | | |
| 平成29年度 | 妊婦とその夫を対象にハバママ教室を行いました。 H29：12回、129人 第1子を持つ保護者を対象に離乳食教室を行いました。 H29：12回、234人 | 継続 | 年度ごとで事業評価を行い、ニーズに あった内容等で実施していく必要がある ため。 | | | | | | | | |
| 平成28年度 | 妊婦とその夫を対象にハバママ教室を行いました。実施回数と 参加人数は次のとおり。 ハバママ教室 1回、2回、栄養コース(24年度まで) 平成28年 参加者：471人 回数：32回 第1子をもつ保護者を対象に離乳食教室を行いました。年12回 開催、参加者数は次のとおり。 H28：265人 | 継続 | 教室については、年度ごとで事業評価 を行い、ニーズにあった内容等で実施 していく必要がある。 | | | | | | | | |
| イ 幼稚 園・保育 園・児童 館等にお ける食育 の推進 | 各年齢に適した食に 関する年間食育計画 を策定します。 「園だより」「クラ スだより」を活用し た普及啓発を行いま す。 未就園の乳幼児の食 に対する相談や情報 提供等を実施しま す。 児童館での、小学生 を対象とした調理体 験を開催します。 育てた野菜等を利用 して調理体験等を し、食への関心を深 めます。 | 子ども未来 課 | ①食育の関心の向上 ・食育に関心のある市民 (保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% | 令和2年度 | 子どもの年齢に応じた食育計画を策定し、計画に基づいて食育 を実施した。 保育園の園だよりなどで、保護者に向けて啓発を行った。 | 継続 | 食育計画を毎年作成し、計画に基づ き食育を実施しているため、今後も継続 して実施する。 | 食生活改善推進委員会 | 食育計画に従い、年齢ご とに食事のマナーや知 識、食材や食品への興 味を抱くように進めるこ とができた。 | B | 子どもたちの状況を見な がら食育計画を作成し、 子どもたちの食への関心 を高めていく。 |
| | | | | 令和元年度 | 子どもの年齢に応じた食育計画を策定し、計画に基づいて食育 を実施した。 保育園の園だよりなどで、保護者に向けて啓発を行った。 | 継続 | 食育計画を毎年作成し、計画に基づ き食育を実施しているため、今後も継続 して実施する。 | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 子どもの年齢に応じた食育計画を策定し、計画に基づいて食育 を実施した。 保育園の園だよりなどで、保護者に向けて啓発を行った。 児童館において「小学生クッキング」を年8回実施した。 | 継続 | 食育計画を毎年作成し、計画に基づ き食育を実施しているため、今後も継続 して実施する。 | | | | |
| | | | | 平成29年度 | 子どもの年齢に応じた食育計画を策定し、計画に基づいて食育 を実施した。 保育園の園だよりなどで、保護者に向けて啓発を行った。 児童館において「小学生クッキング」を年9回実施した。 | 継続 | 食育計画を毎年作成し、計画に基づ き食育を実施しているため、今後も継続 して実施する。 | | | | |
| | | | | 平成28年度 | 子どもの年齢に応じた食育計画を策定し、計画に基づいて食育 を実施した。 保育園の園だよりなどで、保護者に向けて啓発を行った。 児童館において「小学生クッキング」を年9回実施した。 | 継続 | 食育計画を毎年作成し、計画に基づ き食育を実施しているため、今後も継続 して実施する。 | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|--|---|--|--|---|--|--|--|-----------|--|
| ウ 学校における食育の推進 | 授業や給食の時間を中心に教育者による指導を実施します。 委員会等で子どもたち自身による問題把握、啓発活動を実施します。 「保健だより」「給食だより」で児童への啓発、保護者への協力を呼びかけます。 | 教育総務課 | ①食育の関心の向上 ・食育に関心のある市民(保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% | 令和2年度 | 生活科、家庭科、体育、保健、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の授業や給食の時間を中心に、担任や教科担任、あるいは学校栄養教諭による指導を行った。 給食委員により、毎月の給食目標の呼びかけを行った。 栄養教諭による栄養指導 R2年度実績 43時間(小中学校) 給食指導166回(長小)、147回(南小)、147回(長中) 放送による献立解説(地場産物、栄養、行事食等)を行った。 養護教諭や給食主任が作成する保健だより、給食だよりでの児童への啓発や保護者への協力の呼びかけを行った。 | 継続 | 生活リズムは、家庭環境が大きく影響するため、学校では達成しきれないところがある。家庭での食に関する意識を高めることが必要であり、今後も継続していく。 | 計画どおり実施し、目標を達成 | A | 継続して実施する。 | |
| | | | | 令和元年度 | 生活科、家庭科、体育、保健、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の授業や給食の時間を中心に、担任や教科担任、あるいは学校栄養教諭による指導を行った。 給食委員により、毎月の給食目標の呼びかけを行った。 栄養教諭による栄養指導 R1年度実績 54時間(小中学校)、給食指導137回(長小)、127回(長中) 放送による献立解説(地場産物、栄養、行事食等)を行った。 養護教諭や給食主任が作成する保健だより、給食だよりでの児童への啓発や保護者への協力の呼びかけを行った。 | 継続 | 生活リズムは、家庭環境が大きく影響するため、学校では達成しきれないところがある。家庭での食に関する意識を高めることが必要であり、今後も継続していく。 | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 生活科、家庭科、体育、保健、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の授業や給食の時間を中心に、担任や教科担任、あるいは学校栄養教諭による指導を行った。 給食委員により、毎月の給食目標の呼びかけを行った。 栄養教諭による栄養指導 H30年度実績 66時間(小中学校)、給食指導142回(長小)、129回(長中) 放送による献立解説(地場産物、栄養、行事食等)を行った。 養護教諭や給食主任が作成する保健だより、給食だよりでの児童への啓発や保護者への協力の呼びかけを行った。 | 継続 | 生活リズムは、家庭環境が大きく影響するため、学校では達成しきれないところがある。家庭での食に関する意識を高めることが必要であり、今後も継続していく。 | | | | |
| | | | | 平成29年度 | ・生活科、家庭科、体育、保健、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の授業や給食の時間を中心に、担任や教科担任、あるいは学校栄養教諭による指導を行った。 ・給食委員により、毎月の給食目標の呼びかけを行った。 ・栄養教諭による栄養指導 H29年度実績 68時間(小学校6校)、18時間(長中) ・放送による献立解説(地場産物、栄養、行事食等)を行った。 ・養護教諭や給食主任が作成する保健だより、給食だよりでの児童への啓発や保護者への協力の呼びかけを行った。 | 継続 | ・生活リズムは、家庭環境が大きく影響するため、学校では達成しきれないところがある。家庭での食に関する意識を高めることが必要であり、今後も継続していく。 | | | | |
| | | | | 平成28年度 | 生活科、家庭科、体育、保健、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の授業や給食の時間を中心に、担任や教科担任、あるいは学校栄養教諭による指導を行った。 栄養教諭による栄養指導 H28年度実績 50時間(小学校6校)、24時間(長中) 給食委員により、毎月の給食目標の呼びかけを行った。 放送による献立解説(地場産物、栄養、行事食等)を行った。 養護教諭や給食主任が作成する保健だより、給食だよりでの児童への啓発や保護者への協力の呼びかけを行った。 | 継続 | 生活リズムは、家庭環境が大きく影響するため、家庭での食に関する意識を高めることが必要であり、学校では達成しきれないところがある。 | | | | |
| | 給食センター | ①食育の関心の向上 ・食育に関心のある市民(保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% ②地元の農産物を購入する市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 31.0% R02 32.1% | 令和2年度 | 家庭配布用献立表の発行(全10回)(5月分は、コロナ禍による学校臨時休業により配布なし) 学校給食だより「ながくての給食」の発行(全3回) | 継続 | 毎月の献立表や学期ごと発行の学校給食だより「ながくての給食」で、食に関する情報を発信したため。 | (取組の成果) ・毎月の献立表や学期ごと発行の学校給食だより「ながくての給食」で、生産会を取り上げたり、愛知県、長久手市産の食に関する情報を発信してきた。 (残された課題) ・愛知県、長久手市産の食材の安定した供給 | B | ・愛知県、長久手市産の食材の安定した供給を行うため、より生産会等と連携を取っていきたい。 | | |
| | | | 令和元年度 | 家庭配布用献立表の発行(全11回) 学校給食だより「ながくての給食」の発行(全3回) | 継続 | 毎月の献立表や学期ごと発行の学校給食だより「ながくての給食」で、食に関する情報を発信するため。 | | | | | |
| | | | 平成30年度 | 家庭配布用献立表の発行(全11回) 学校給食だより「ながくての給食」の発行(全3回) | 継続 | 毎月の献立表や学期ごと発行の学校給食だより「ながくての給食」で、食に関する情報を発信するため。 | | | | | |
| | | | 平成29年度 | 家庭配布用献立表の発行(全11回) 学校給食だより「ながくての給食」の発行(全3回) | 継続 | 毎月の献立表や学期ごと発行の学校給食だより「ながくての給食」で、食に関する情報を発信したため。 | | | | | |
| | | | 平成28年度 | (記載なし) | (記載なし) | (記載なし) | | | | | |
| | 学校と連携して啓発活動を実施します。 | 平成こども塾 | ①食育の関心の向上 ・食育に関心のある市民(保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% ②家族や友人等と一緒に食事を摂る市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 96.8% R02 91.6% ③食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」を言う市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 91.7% R02 88.1% | 令和2年度 | 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「食のプログラム」は全て中止した(令和2年度はものづくり体験のみ実施)。 | 継続 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として位置づけられているため。また、平成こども塾事業の一環としても学校連携事業として、自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行う。 | ・野外活動同好会 ・Heartの会 ・愛知県創造レクリエーション研究会 | (取組の成果) ・昔ながらの道具と作業方法で活動するため、手間や時間を要するが、その分子どもには食べることに大変さと大切さが伝わっていると思われる(感想等から)。 (残された課題) ・上記のことは、各家庭に望むべくもないので、せめてこども塾で継承していくことが重要と思われる。 ・子どもたちは、活動経験が乏しいため、昔の道具の使用時に安全で正しい使い方を指導するのに工夫と時間が必要になっている。 | A | 教育計画に余裕がなくなってきた現状で、学校側と良く相談して児童たちがこども塾に来る時間を確保し、事業を継続できるようにしていく。 |
| | | | | 令和元年度 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として、屋外でのカレーライス作りや自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行っている。これらの中で、食育に関係するプログラムは67回、2,317人が参加した。 | 継続 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として位置づけられているため。また、平成こども塾事業の一環としても学校連携事業として、自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行っている。 | ・野外活動同好会 ・Heartの会 ・愛知県創造レクリエーション研究会 ・食生活改善推進委員会 | | | |
| | | | | 平成30年度 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として、屋外でのカレーライス作りや自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行っている。これらの中で、食育に関係するプログラムは65回、2,229人が参加した。 | 継続 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として位置づけられているため。また、平成こども塾事業の一環としても学校連携事業として、自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行っている。 | ・野外活動同好会 ・Heartの会 ・愛知県創造レクリエーション研究会 ・食生活改善推進委員会 | | | |
| | | | | 平成29年度 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として、屋外でのカレーライス作りや自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行っている。(食育に関係するプログラムは以下の通り) 平成29年度 62回 2,100人参加 | 継続 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として位置づけられているため。また、平成こども塾事業の一環としても学校連携事業として、自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行っている。 | ・野外活動同好会 ・Heartの会 ・愛知県創造レクリエーション研究会 ・食生活改善推進委員会 | | | |
| | | | | 平成28年度 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として、自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行っている。 平成28年度 67回 2,298人参加 | - | 地域ボランティアと子どもたちが一緒に郷土料理などを作ることに、子どもたちの世代を超えたコミュニケーション能力を育むことにつながっている。しかし、栄養バランスについては説明を行っているが、それに基づく料理を行うまでには至っていない。 | ・野外活動同好会 ・ハートの会 ・長久手市食生活改善推進委員会 | | | |

| | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|---------|--|--------|--|----|--|--|---|---|
| エ 若い世代を中心とした食育の推進 | リーフレット等を作成し、食生活の重要性について理解を促進します。 | 健康推進課 | ②朝食の欠食割合の減少 (20~30歳代) 目標値……9.0%以下 H30 11.0% R02 4.4% | 令和2年度 | コロナ対策として朝食づくり講座は中止。代わりに市HPにて、朝食の大切さや、レシピを公開してPR。既存のリーフレットを、39歳以下健診時で配布。 | 継続 | 小中学生及び20歳代朝食の欠食率を減らすため。 | (取組の成果) ・HP、広報紙でのPR、健診でのリーフレット配布により食生活の重要性が周知できた。 (残された課題) ・毎年定例的なPR方法にとどまっており、周知したいターゲットが広がっていない。 | B | ・他の事業でも朝食講座のご案内や、既存リーフレットを配布しより積極的なPRを行う。 |
| | | | | 令和元年度 | 小中学生親子を対象に、朝食づくり講座を実施しました。R1：1回、参加人数：32人 既存のリーフレットを、成人式、39歳以下健診時で配布。 | 充実 | 小中学生及び20歳代朝食の欠食率を減らすため。 | | | |
| | | | | 平成30年度 | 小中学生親子を対象に、朝食づくり講座を実施しました。H30：1回、参加人数：17人 既存のリーフレットを利用し、成人式に配布しました。 | 充実 | 小中学生及び20歳代朝食の欠食率を減らすため。 | | | |
| | | | | 平成29年度 | 既存のリーフレットを利用し、成人式に配布した。 | 継続 | 20歳代朝食の欠食率を減らすため。 | | | |
| | | | | 平成28年度 | 既存のリーフレットを利用し、成人式に配布した。 | 継続 | 若い世代に向けた啓発の実施方法 | | | |
| オ 高齢期における食育の推進 | NPO等と協力し、サロンなどを活用した共食の場を提供します。 食による健康維持を支援します。 | 長寿課 | ①食育の関心の向上 ・食育に関心のある市民(保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% | 令和2年度 | 介護予防事業の取組において、共食を含んだプログラムを実施したり、食事を提供するコミュニティカフェ等と連携して事業を行ったりした。 | 継続 | 令和2年度から開始した場があることや、既存の場においても現状の参加者が少ないことから、まずは現状のプログラム等を継続し、定着させる必要がある。 ・藤が丘つぼハウス和 ・NPO法人つづら ・なないろカフェパンパン ・さくらワークス | (取組の成果) 介護予防プログラムの中で、共食の場を増やすことができ、参加者の食育に繋がった。 (残された課題) 介護予防プログラムを実施する場において、食事の提供もできる場所は少なく、現状から増やすことが難しい。 | B | ・事業者への食育の重要性を再周知する。 ・その場での食事を伴わない介護予防プログラムにおいても、民間企業の栄養士などによる栄養についての講話を実施し、参加者の食育に繋げる。 ・食事を伴うプログラムを実施する際には、民間企業の栄養士などを招き、栄養講話を実施する。 |
| | | | | 令和元年度 | 介護予防事業の取組において、共食を含んだプログラムを実施したり、食事を提供するコミュニティカフェ等と連携して事業を行ったりした。 | 充実 | さらに共食の場が増えるようにしていく必要がある。 ・藤が丘つぼハウス和 ・NPO法人つづら | | | |
| | | | | 平成30年度 | 介護予防事業の取組において、共食を含んだプログラムを実施したり、食事を提供するコミュニティカフェ等と連携して事業を行ったりした。 | 充実 | さらに共食の場が増えるようにしていく必要がある。 ・藤が丘つぼハウス和 ・NPO法人つづら | | | |
| | | | | 平成29年度 | 事業者による高齢者を対象とした介護予防プログラムを行うサロン(市委託事業)において、プログラムに昼食を取り入れた事業者が8業者のうち1者あった。 | 継続 | 事業者の創意工夫を活かした介護予防プログラムの実施を支援する中で、事業者に食育の重要性を呼びかけていくため。 | | | |
| | | | | 平成28年度 | 介護予防事業の一つとして機能回復訓練と栄養改善を合わせたプログラム「あったか昼食会」を前期・後期各12回開催。参加登録合計33名。 | 改善 | 福祉の家における、クール制のプログラムであり、参加できる人が限られている。 | | | |
| カ 食育ガイドや食事バランスガイドの活用促進 | イラストを交えたわかりやすい食育ガイド、食事バランスガイドを、啓発します。 | みどりの推進課 | ①食育の関心の向上 ・食育に関心のある市民(保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% | 令和2年度 | 引き続き、市ホームページから食育ガイド、食事バランスガイドを閲覧できるようリンクを掲載した。 | 継続 | 市のホームページに掲載することで、食育ガイド、食事バランスガイドを啓発することができているため。 | (取組の成果) 直接的な成果は無いと感じる。 (残された課題) 興味があって自発的にホームページを見る方しかし啓発できていない。 | B | ホームページ以外での啓発にも取り組んでいく。 |
| | | | | 令和元年度 | 引き続き、市ホームページから食育ガイド、食事バランスガイドを閲覧できるようリンクを掲載した。 | 継続 | 市のホームページに掲載することで、食育ガイド、食事バランスガイドを啓発することができているため。 | | | |
| | | | | 平成30年度 | 引き続き、市ホームページから食育ガイド、食事バランスガイドを閲覧できるようリンクを掲載した。 | 継続 | 市のホームページに掲載することで、食育ガイド、食事バランスガイドを啓発することができているため。 | | | |
| | | | | 平成29年度 | 市ホームページから食育ガイド、食事バランスガイドを閲覧できるようリンクを設置した。 | 継続 | 市のホームページに掲載することで、食育ガイド、食事バランスガイドを啓発することができているため。 | | | |
| | | | | 平成28年度 | 未実施 | 改善 | 啓発が必要である。 | | | |

1-2. 生活習慣病や肥満等の予防

| 項目 | 概要 | 担当課 | 関連する数値目標実績 | 前年度(令和2年度)の取組実績と令和3年度実施方針 | | | | 現行計画の実績と評価 | | | |
|-------------------------------------|--|---|--|---|---|---|---|---|--|----------------------|----------------------------------|
| | | | | 取組実績 (施策・事業の実施状況) | 令和3年度の 実施方針 | 左記の判断理由 | 連携している市民団体 | 過去5年度を振り返って 取組の成果と残された課題 | 評価 | 今後の方向性 (充実・改善の方向) | |
| ア 健康 寿命の延 命につな がる食育 の推進 | 学校においては、学 校医等による学校保 健活動の推進を図り ます。 | 子ども未来 課 | ①食育の関心の向上 ・食育に関心のある 市民(保護者)の割 合 目標値……90.0% 以上 H30 95.4% R02 92.8% | 令和2年度 | デイリープログラムの中でリズムあそびや戸外遊びを充実し、積極的に身体を動かす体験を増やす。 | 継続 | 保育活動の中で、リズムあそびや戸外遊びなど身体を動かす体験をとおし、児童の健康的な成長を促すことができるため。 | | リズム遊び等を通して、 怪我をしないよう足腰を 鍛えたり、ロールマット を利用して体の柔軟性を 高めたり、健康的な体の 成長を促している。 | B | 今後も健康的な体の成長 を促す保育を実施してい く。 |
| | | | | 令和元年度 | デイリープログラムの中でリズムあそびや戸外遊びを充実し、積極的に身体を動かす体験を増やす。 | 継続 | 保育活動の中で、リズムあそびや戸外遊びなど身体を動かす体験をとおし、児童の健康的な成長を促すことができるため。 | | | | |
| | | | | 平成30年度 | デイリープログラムの中でリズムあそびや戸外遊びを充実し、積極的に身体を動かす体験を増やす。 | 継続 | 保育活動の中で、リズムあそびや戸外遊びなど身体を動かす体験をとおし、児童の健康的な成長を促すことができるため。 | | | | |
| | | | | 平成29年度 | デイリープログラムの中でリズムあそびや戸外遊びを充実し、積極的に身体を動かす体験を増やす。 | 継続 | 保育活動の中で、リズムあそびや戸外遊びなど身体を動かす体験をとおし、児童の健康的な成長を促すことができるため。 | | | | |
| | | | | 平成28年度 | デイリープログラムの中でリズムあそびや戸外遊びを充実し、積極的に身体を動かす体験を増やす。 | 継続 | 保育活動の中で、リズムあそびや戸外遊びなど身体を動かす体験をとおし、児童の健康的な成長を促すことができるため。 | | | | |
| | | | | 令和2年度 | 学校においては、身体測定結果から成長曲線・肥満度曲線を作成し、学校医に専門医の診察が必要と診断された場合は、受診勧奨を行った。 | 継続 | 家庭での食生活については、保護者に対する啓発活動が重要であり、今後も継続していく。 | | | | |
| | 令和元年度 | 学校においては、身体測定結果から成長曲線・肥満度曲線を作成し、学校医に専門医の診察が必要と診断された場合は、受診勧奨を行った。 | 継続 | 家庭での食生活については、保護者に対する啓発活動が重要であり、今後も継続していく。 | | | | | | | |
| | 平成30年度 | 学校においては、身体測定結果から成長曲線・肥満度曲線を作成し、学校医に専門医の診察が必要と診断された場合は、受診勧奨を行った。 | 継続 | 家庭での食生活については、保護者に対する啓発活動が重要であり、今後も継続していく。 | | | | | | | |
| | 平成29年度 | 学校においては、身体測定結果から成長曲線・肥満度曲線を作成し、学校医に専門医の診察が必要と診断された場合は、受診勧奨を行った。 | 継続 | 家庭での食生活については、保護者に対する啓発活動が重要であり、今後も継続していく。 | | | | | | | |
| | 平成28年度 | 学校においては、身体測定結果から成長曲線・肥満度曲線を作成し、学校医に専門医の診察が必要と診断された場合は、受診勧奨を行った。 | 継続 | 家庭での食生活については、保護者に対する啓発活動が重要である。 | | | | | | | |
| | 令和2年度 | 健康講座として骨密度測定会を実施し、希望者にはその場での食と運動の個別相談も実施した。 | 継続 | すぐに定員いっぱいとなり、需要が見込めるため | | (取組の成果) ・HP、広報紙でのPRで 毎年満員となる事業である。 個別相談を受けられる 方も多い状況であり、 食育の大切さを周知できた。 (残された課題) ・例年参加されている方 が多く、新規の方が少なく 周知したいターゲットに 広がっていない。 | B | ・新規参加者を受けいら れるように、参加条件を つける等周知したいター ゲットに広げていく。 | | | |
| | 令和元年度 | 健康講座として骨密度測定会を実施し、希望者にはその場での食と運動の個別相談も実施した。 | 継続 | すぐに定員いっぱいとなり、需要が見込めるため | | | | | | | |
| 平成30年度 | 健康講座として骨密度測定会を実施し、希望者にはその場での食と運動の個別相談も実施した。 | 継続 | すぐに定員いっぱいとなり、需要が見込めるため | | | | | | | | |
| 平成29年度 | 健康講座として骨密度測定会を実施し、希望者にはその場での食と運動の個別相談も実施した。 | 継続 | すぐに定員いっぱいとなり、需要が見込めるため | | | | | | | | |
| 平成28年度 | 食と運動の講座を開催し、体成分分析装置で各個人の部位の筋肉や脂肪を計測して、各個人の状態に合わせた解説をする健康講座を開催した。また、体成分分析装置の測定会やまちの保健師活動で体成分分析装置を活用した健康相談を実施した。 | 継続 | 体成分分析装置を多くの市民に利用して貰うためのPR方法 | | | | | | | | |

1-3. 食に関する情報の理解と選択

| 項目 | 概要 | 担当課 | 関連する数値目標実績 | 前年度(令和2年度)の取組実績と令和3年度実施方針 | | | | 現行計画の実績と評価 | | | |
|--------------------|---|---------|---|---------------------------|--|----------------|--------------------------------------|------------|--|----|---|
| | | | | 取組実績 (施策・事業の実施状況) | | 令和3年度の 実施方針 | 左記の判断理由 | 連携している市民団体 | 過去5年度を振り返って 取組の成果と残された課題 | 評価 | 今後の方向性 (充実・改善の方向) |
| ア 食の安全に関する情報提供及び啓発 | 食品の安全性や栄養成分、食物アレルギー、食習慣等の正しい情報を、市の広報誌、パンフレット、ホームページ、講習、ケーブルテレビ等を活用し、市民に情報提供を行います。 | みどりの推進課 | ①食育の関心の向上 ・食育に関心のある市民(保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% ⑤食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民(保護者)の割合 目標値……60.0%以上 H30 30.9% R02 22.3% | 令和2年度 | 引き続き、市ホームページで関係各課の食育に関する取組を紹介した。 | 継続 | 市ホームページで不特定多数の方に情報提供できているため。 | | (取組の成果) 直接的な成果は無いと感じる。 (残された課題) 興味があって自発的にホームページを見る方しか啓発できていない。 | C | ホームページ以外での啓発にも取り組んでいく。食に関する正しい情報の啓発については、民間と協力し、食育関連の講演会等を開催できると良い。 |
| | | | | 令和元年度 | 引き続き、市ホームページで関係各課の食育に関する取組を紹介した。 | 継続 | 市ホームページで不特定多数の方に情報提供できているため。 | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 引き続き、市ホームページで関係各課の食育に関する取組を紹介した。 | 継続 | 市ホームページで不特定多数の方に情報提供できているため。 | | | | |
| | | | | 平成29年度 | 市ホームページにて、関係各課の食育に関する取組を集約し紹介した。 | 継続 | 市ホームページで不特定多数の方に情報提供できているため。 | | | | |
| | | | | 平成28年度 | 未実施 | 改善 | 情報提供が不十分である。 | | | | |
| | 近年増加する食物アレルギーに対応するため、正しい理解促進を行います。 | 健康推進課 | ①食育の関心の向上 ・食育に関心のある市民(保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% | 令和2年度 | 各種乳幼児健診・相談で身体計測、発育状態の評価をし、食物アレルギーを含め、食の安全に関する情報提供及び啓発をしています。実施回数と参加人数は以下の通り。 3~4か月児健診 R02:16回、663人 10~11か月児相談 R02:16回、590人 1歳6か月児健診 R02:18回、731人 3歳児健診 R02:18回、770人 | 継続 | 受診対象者が毎回異なるため、各種乳幼児健診・相談で継続して実施していく。 | | (取組の成果) 乳幼児健診・相談・育児教室・のびのび計測等での子どもの身体計測を行い、発育を評価し、食に関する助言を行う機会を提供することができた。 (残された課題) 食物アレルギーは、種類や程度が様々で一律の助言をすることができないため、指導をする保健師の知識が必要。 | A | (今後の方向性) 研修等を利用し、新しい食物アレルギーの知識を得て保健師の知識向上を図る。市民に乳児のうちから正しい食物アレルギーの情報提供を行う。 |
| | | | | 令和元年度 | 各種乳幼児健診・相談で身体計測、発育状態の評価をし、食物アレルギーを含め、食の安全に関する情報提供及び啓発をしています。実施回数と参加人数は以下の通り。 3~4か月児健診 R01:16回、629人 10~11か月児相談 R01:15回、619人 1歳6か月児健診 R01:16回、661人 3歳児健診 R01:16回、688人 | 継続 | 受診対象者が毎回異なるため、各種乳幼児健診・相談で継続して実施していく。 | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 各種乳幼児健診・相談で身体計測、発育状態の評価をし、食物アレルギーを含め、食の安全に関する情報提供及び啓発をしています。実績は次のとおり。 3~4か月児健診 H30 参加者:668人 回数:17回 10~11か月児相談 H30 参加者:597人 回数:16回 1歳6か月児健診 H30 参加者:719人 回数:17回 3歳児健診 H30 参加者:752人 回数:17回 | 継続 | 受診対象者が毎回異なるため、各種乳幼児健診・相談で継続して実施していく。 | | | | |
| | | | | 平成29年度 | 各種乳幼児健診・相談で身体計測、発育状態の評価をし、食物アレルギーを含め、食の安全に関する情報提供及び啓発をしています。実績は次のとおり。 3~4か月児健診 H29 参加者:658人 回数:17回 10~11か月児相談 H29 参加者:647人 回数:16回 1歳6か月児健診 H29 参加者:726人 回数:17回 3歳児健診 H29 参加者:756人 回数:17回 | 継続 | 受診対象者が毎回異なるため | | | | |
| | | | | 平成28年度 | 各種乳幼児健診・相談で身体計測、発育状態の評価をし、食物アレルギーを含め、食の安全に関する情報提供及び啓発をしています。実績は次のとおり。 3~4か月児健診 H28 参加者:694人 回数:17回 10~11か月児相談 H28 参加者:657人 回数:16回 1歳6か月児健診 H28 参加者:723人 回数:16回 3歳児健診 H28 参加者:716人 回数:16回 | 継続 | | | | | |

| 【令和3年度の方針】 | |
|------------|----------------|
| 継続 | 現行どおり、取組を継続する |
| 充実 | 取組内容の充実を図る |
| 改善 | 取組内容の見直し、改善を図る |
| 縮小 | 取組の規模を縮小する |
| 廃止 | 取組を廃止する |

| 【取組の評価】 | |
|---------|-----------------------|
| A | 計画どおり実施し、目標を達成 |
| B | 計画どおり実施し、目標に近づき効果を感じる |
| C | 実施したが、目標達成にはほど遠い |
| D | 実施できていない |

(2) 食を通して豊かな心を育みます

2-1. 家族や友人等と食事を楽しむ共食の推進

| 項目 | 概要 | 担当課 | 関連する数値目標実績 | 前年度(令和2年度)の取組実績と令和3年度実施方針 | | | | 現行計画の実績と評価 | | | | | | | | | | |
|--|--|---|--|------------------------------------|--|---|---|-----------------------------|--|----------------------|--|--|---|---|--|---|---|-----------------|
| | | | | 取組実績 (施策・事業の実施状況) | 令和3年度の実施方針 | 左記の判断理由 | 連携している市民団体 | 過去5年度を振り返って 取組の成果と残された課題 | 評価 | 今後の方向性 (充実・改善の方向) | | | | | | | | |
| ア 共食の推進、食事作法の習得 | 食育マナーの習得の機会となる「共食」への関心が高められるように、情報の発信や周知に取り組みます。 | みどりの推進課 | ⑥家族や友人等と一緒に食事を摂る市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 96.8% R02 91.6% | 令和2年度 | 食育月間を中心に共食を呼びかけた。 | 継続 | 市ホームページで不特定多数の方に情報提供できているため。 | | (取組の成果) 直接的な成果は無いと感じる。 (残された課題) 興味があって自発的にホームページを見る人しか啓発されない。 | B | 民間と連携し、共食の大切さを啓発できるようなイベントを検討する。 | | | | | | | |
| | | | | 令和元年度 | 食育月間を中心に共食を呼びかけた。 | 継続 | 市ホームページで不特定多数の方に情報提供できているため。 | | | | | | | | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 引き続き、市ホームページで関係各課の食育に関する取組を紹介した。また、食育月間を中心に共食を呼びかけた。 | 継続 | 市ホームページで不特定多数の方に情報提供できているため。 | | | | | | | | | | | |
| | | | | 平成29年度 | 市ホームページにて、関係各課の食育に関する取組や集約し紹介した。また、食育月間を中心に共食を呼びかけた。 | 継続 | 市ホームページで不特定多数の方に情報提供できているため。 | | | | | | | | | | | |
| | | | | 平成28年度 | 未実施 | 改善 | 情報発信が不十分である。 | | | | | | | | | | | |
| | | | | 保育園において、食事マナーを習慣として身につくよう園児に指導します。 | 子ども未来課 | ⑥家族や友人等と一緒に食事を摂る市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 96.8% R02 91.6% ⑧食事の席に「いただきます」「ごちそうさま」を言う市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 91.7% R02 88.1% | 令和2年度 | | | | | 「いただきます」「ごちそうさま」などの挨拶や箸やスプーン等の道具を使って食事がとれるよう指導した。また、食材の栄養価をわかりやすく園児に伝えることで、子どもたちがたくさん食料を口にすることができた。 | 継続 | 今後も、食事マナーが習慣として身につくよう園児への指導を継続します。 | | 成果としては、食事のマナーは保育園のみならず食生活には意識して行っている。今後の課題としては、家庭でも行えるように家庭に啓蒙していく。 | A | 家庭に伝えていく方法を考える。 |
| | | | | | | | 令和元年度 | | | | | 「いただきます」「ごちそうさま」などの挨拶や箸やスプーン等の道具を使って食事がとれるよう指導した。また、食材の栄養価をわかりやすく園児に伝えることで、子どもたちがたくさん食料を口にすることができた。 | 継続 | 今後も、食事マナーが習慣として身につくよう園児への指導を継続します。 | | | | |
| | | | | | | | 平成30年度 | | | | | 「いただきます」「ごちそうさま」などの挨拶や箸やスプーン等の道具を使って食事がとれるよう指導した。 | 継続 | 今後も、食事マナーが習慣として身につくよう園児への指導を継続します。 | | | | |
| | | | | | | | 平成29年度 | | | | | 給食センターの保育園担当栄養士がおおむね月1回各保育園を訪問し、園児の食事の様子を見たり食育指導を実施した。また、「いただきます」「ごちそうさま」などの挨拶や箸やスプーン等の道具を使って食事がとれるよう指導した。 | 継続 | 保育園担当栄養士による月1回程度の訪問指導を受け、園児の食事マナーが向上した。 | | | | |
| | | | | | | | 平成28年度 | | | | | 給食センターの保育園担当栄養士がおおむね月1回各保育園を訪問し、園児の食事の様子を見たり食育指導を実施した。また、「いただきます」「ごちそうさま」などの挨拶や箸やスプーン等の道具を使って食事がとれるよう指導した。 | 継続 | | | | | |
| 管理栄養士が各保育園を巡回する際、食残しの状況を確認し、担任保育士等にアドバイスを行います。 | 給食センター | ⑥家族や友人等と一緒に食事を摂る市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 96.8% R02 91.6% ⑧食事の席に「いただきます」「ごちそうさま」を言う市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 91.7% R02 88.1% | 令和2年度 | | | | 保育園巡回栄養指導(審指導、給食指導)延べ96回 *個別案件について、担任保育士等へのアドバイスも巡回時に実施。 *令和2年4月20日から5月末日までは、新型コロナウイルス感染症対策による臨時休園で保育園給食なし。その間は、巡回も行っていない。7月から巡回開始。 | 継続 | 園児増によりクラス数の増加が見込まれるが、指導機会が平成30年度と同程度以上となるよう努める。 | | (取組の成果) ・個別案件について、担任保育士等へのアドバイスも巡回時に実施することができた。 (残された課題) ・園児増によりクラス数の増加が見込まれるが、指導機会を増やすのがなかなか難しい。 | B | 園児増によりクラス数の増加が見込まれるため、それに合わせ、指導機会を増やしていきたい。 | | | | | |
| | | | 令和元年度 | | | | 保育園巡回栄養指導(審指導、給食指導)延べ107回 *個別案件について、担任保育士等へのアドバイスも巡回時に実施。(平成30年度実績100回)(平成29年度実績100回) | 充実 | 平成29年度から管理栄養士2名体制となったため、従前より巡回指導の拡充が実現した。今後は、園児増によりクラス数の増加が見込まれるが、指導機会が同等以上となるよう努める。 | | | | | | | | | |
| | | | 平成30年度 | | | | 保育園巡回栄養指導(審指導、給食指導)延べ100回 *個別案件について、担任保育士等へのアドバイスも巡回時に実施。(平成29年度実績100回)(平成28年度実績74回) | 充実 | 平成29年度から管理栄養士2名体制となったため、従前より巡回指導の拡充が実現した。今後は、園児増によりクラス数の増加が見込まれるが、指導機会が同等以上となるよう努める。 | | | | | | | | | |
| | | | 平成29年度 | | | | 保育園巡回栄養指導(審指導、給食指導)延べ100回(前年度26回増、36%増) *個別案件について、担任保育士等へのアドバイスも巡回時に実施。 | 継続 | 平成29年度から管理栄養士2名体制となったため、前年度より巡回指導の大幅な拡充が実現したため。今後は、園児増によりクラス数の増加が見込まれるが、指導機会が同等以上となるよう努める。 | | | | | | | | | |
| | | | 平成28年度 | | | | (記載なし) | - | | | | | | | | | | |

2-2. 日本型食生活の推進、地域の食文化の継承

| 項目 | 概要 | 担当課 | 関連する数値目標実績 | 前年度(令和2年度)の取組実績と令和3年度実施方針 | | | | 現行計画の実績と評価 | | | | | | | | |
|-----------------------|---|--------|---|---------------------------|--|---------|--|--|--|----------------------|--|---|--|---|---|----------------------------------|
| | | | | 取組実績 (施策・事業の実施状況) | 令和3年度の 実施方針 | 左記の判断理由 | 連携している市民団体 | 過去5年度を振り返って 取組の成果と残された課題 | 評価 | 今後の方向性 (充実・改善の方向) | | | | | | |
| ア 日本型食生活の推進、地域の食文化の継承 | 地域の伝統的な食文化の継承については保育園、児童館、平成こども塾において、地域の伝統食である「おこしもの」づくり等を実施します。 特に平成こども塾での活動は、小学校の授業の一環としても実施しているところであり、子どもが伝統的な食文化に触れる機会を提供します。 | 子ども未来課 | ⑥家族や友人等と一緒に食事を摂る市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 96.8% R02 91.6% | 令和2年度 | 給食の献立に旬の野菜を使ったり、行事食等(七草がゆ、ちまき等)を取り入れた。また、保育活動の中に地域の伝統食であるおこしものづくり等を取り入れた。 | 継続 | 今後も地域の伝統食を伝えていくため。 | | 伝統食に触れる機会が提供できている。家庭ではあまり触れる機会がないため、家庭とも共有できるように保護者に働きかける。 | A | 今後も継続していく。 | | | | | |
| | | | | 令和元年度 | 給食の献立に旬の野菜を使ったり、行事食等(七草がゆ、ちまき等)を取り入れた。また、保育活動の中に地域の伝統食であるおこしものづくり等を取り入れた。 | 継続 | 今後も地域の伝統食を伝えていくため。 | | | | | | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 給食の献立に旬の野菜を使ったり、行事食等(七草がゆ、ちまき等)を取り入れた。また、保育活動の中に地域の伝統食であるおこしものづくり等を取り入れた。 | 継続 | 今後も地域の伝統食を伝えていくため。 | | | | | | | | | |
| | | | | 平成29年度 | 給食の献立に旬の野菜を使ったり、行事食等(七草がゆ、ちまき等)を取り入れた。また、保育活動の中に地域の伝統食であるおこしものづくり等を取り入れた。 | 継続 | 今後も地域の伝統食を伝えていくため。 | | | | | | | | | |
| | | | | 平成28年度 | 給食の献立に旬の野菜を使ったり、行事食等(七草がゆ、ちまき等)を取り入れた。また、保育活動の中に地域の伝統食であるおこしものづくり等を取り入れた。 | 継続 | | | | | | | | | | |
| | | 平成こども塾 | ①食育の関心の向上・食育に関心のある市民(保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% ⑥家族や友人等と一緒に食事を摂る市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 96.8% R02 91.6% ⑧食事の振に「いただきます」を言う市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 91.7% R02 88.1% | 令和2年度 | 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「食のプログラム」を全て中止した(令和2年度はものづくり体験のみ実施)。 | 継続 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として位置づけられているため。また、平成こども塾事業の一環としても学校連携事業として、自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行う。 | ・野外活動同好会 ・Heartの会 ・愛知県創造レクリエーション研究会 | <p>(取組の成果) 地域に伝わる食文化が、各家庭において継承されるようになってきている中、こども塾での活動は、子どもたちに対して貴重な体験を提供してきた。</p> <p>(残された課題) 文化の継承に携わる講師を担っているボランティアの高齢化が課題となっている。</p> | A | 教育計画に余裕がなくなっている現状で、学校側と良く相談して児童たちがこども塾に来る時間を確保し、事業を継続できるようにしていく。 | | | | | |
| | | | | 令和元年度 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として、屋外でのカレーライス作りや自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムは67回、2,317人が参加した。 | 継続 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として位置づけられているため。また、平成こども塾事業の一環としても学校連携事業として、自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行った。 | ・野外活動同好会 ・Heartの会 ・愛知県創造レクリエーション研究会 ・食生活改善推進委員会 | | | | | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として、屋外でのカレーライス作りや自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムは65回、2,229人が参加した。 | 継続 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として位置づけられているため。また、平成こども塾事業の一環としても学校連携事業として、自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行った。 | ・野外活動同好会 ・Heartの会 ・愛知県創造レクリエーション研究会 ・食生活改善推進委員会 | | | | | | | | |
| | | | | 平成29年度 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として、屋外でのカレーライス作りや自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムは以下の通り 平成29年度 62回 2,100人参加 | 継続 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として位置づけられているため。また、平成こども塾事業の一環としても学校連携事業として、自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行った。 | ・野外活動同好会 ・Heartの会 ・愛知県創造レクリエーション研究会 ・食生活改善推進委員会 | | | | | | | | |
| | | | | 平成28年度 | 小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として、自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行っている。 平成28年度 67回 2,298人参加 | 継続 | 地域の伝統的な食文化に触れる機会を提供しているが、おこしもの作りや餅つきは、現状の家庭生活では、スベ・菓子等の関係からあくまでも「体験」となっている。 | ・野外活動同好会 ・Heartの会 ・長久手市食生活改善推進委員会 | | | | | | | | |
| | | | | みどりの推進課 | ①食育の関心の向上・食育に関心のある市民(保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% ⑨地元の農産物を購入する市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 31.0% R02 32.1% | 令和2年度 | 伝統野菜である真菜の普及のため、窓口で種子の配布を行うとともに、学校給食の食材に使用してもらった。また、引き続き市ホームページで真菜を紹介した。 | 継続 | | | | 種子の窓口配布は好評で、多くの方に配布することができているため。また、市ホームページで不特定多数の方に情報提供できているため。 | | <p>(取組の成果) 学校給食に使用されたり、窓口での種子配布により、真菜の生産が途絶えず継続されている。</p> <p>(残された課題) 真菜のPR方法が毎年同じ。</p> | B | 現在の取組を継続して行いつつ、よりよい真菜のPR方法を検討する。 |
| | | | | | | 令和元年度 | 伝統野菜である真菜の普及のため、窓口で種子の配布を行うとともに、学校給食の食材に使用してもらった。また、引き続き市ホームページで真菜を紹介した。 | 継続 | | | | 種子の窓口配布は好評で、多くの方に配布することができているため。また、市ホームページで不特定多数の方に情報提供できているため。 | | | | |
| 給食センター | ①食育の関心の向上・食育に関心のある市民(保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% ⑥家族や友人等と一緒に食事を摂る市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 96.8% R02 91.6% ⑧食事の振に「いただきます」を言う市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 91.7% R02 88.1% ⑨地元の農産物を購入する市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 31.0% R02 32.1% | 令和2年度 | 毎月、学校と保育園給食の献立表にメニューに合わせて行事食のいわれや食材についてのコラムを掲載した。学校給食だより「ながくての給食」1学期号で長久手市産「ズッキーニ」を、2学期号で愛知産の「牛肉」・「名古屋コーチン」についての紹介をし、3学期号で児童生徒が「郷土料理」について考えるクイズを掲載した。 | 継続 | 家庭に配布される献立表や学校給食だよりで、家庭の皆さんに食について興味関心をもっていただくきっかけとしているため。 | | <p>(取組の成果) ・毎月、学校と保育園給食の献立表にメニューに合わせて行事食のいわれや食材についてのコラムを掲載することができた。 (残された課題) ・特になし</p> | B | ・よりいっそう、家庭の皆さんに食について興味関心をもっていただけるようにする。 | | | | | | | |
| | | 令和元年度 | 毎月、学校と保育園給食の献立表にメニューに合わせて行事食のいわれや食材についてのコラムを掲載した。学校給食だより「ながくての給食」1学期号で長久手市産ズッキーニの生産者の声を紹介し、3学期号で児童生徒が「真菜(まな)」について発表するようすを掲載した。 | 継続 | 家庭に配布される献立表や学校給食だよりで、家庭の皆さんに食について興味関心をもっていただくきっかけとしているため。 | | | | | | | | | | | |
| | | 平成30年度 | 毎月、学校と保育園給食の献立表にメニューに合わせて行事食のいわれや食材についてのコラムを掲載した。学校給食だより「ながくての給食」3学期号で「真菜(まな)」の生産者の声や育成中の真菜の写真を掲載した。 | 継続 | 家庭に配布される献立表や学校給食だよりで、家庭の皆さんに食について興味関心をもっていただくきっかけとしているため。 | | | | | | | | | | | |
| | | 平成29年度 | 毎月、学校と保育園給食の献立表にメニューに合わせて行事食のいわれや食材についてのコラムを掲載した。学校給食だより「ながくての給食」3学期号で正月料理に「真菜(まな)」を使うことを紹介した。 | 継続 | 家庭に配布される献立表や学校給食だよりで、家庭の皆さんに食について興味関心をもっていただくきっかけとしているため。 | | | | | | | | | | | |
| | | 平成28年度 | (記載なし) | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---------------|--|---|-----------|---|--|--|
| <p>学校給食において郷土料理や伝統的な食文化を反映した献立を取り入れ、食に関する指導を行う上での教材として活用されるよう促進を図ります。</p> | <p>給食センター</p> | <p>①食育の関心のある市民・食育に関心のある市民（保護者）の割合 目標値……90.0%以上 H30 96.4% R02 92.8%</p> <p>②家族や友人等と一緒に食事を摂る市民（保護者）の割合 目標値……50.0%以上 H30 96.8% R02 91.6%</p> <p>③食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」を言う市民（保護者）の割合 目標値……50.0%以上 H30 91.7% R02 88.1%</p> <p>④地元の農産物を購入する市民（保護者）の割合 目標値……50.0%以上 H30 31.0% R02 32.1%</p> | <p>令和2年度</p> <p>引き続き米飯給食を推進した。</p> <p>R2米飯給食実施回数 学校 週4.1回、保育園 3~4回（前年同数） （保育園は各園炊飯実施状況により異なる）</p> <p>学校給食では特に「あいちを食べる学校給食の日」「学校給食週間」に連動して、また保育園給食では日頃から、それぞれ「五目ごはん」「みそおでん」「ひきずり」「きしめん汁」といった愛知県の郷土食を取り入れている。また、季節の行事に合わせた食材を使った料理やデザートを提供を行っている。</p> <p>（例） 端午の節句「柏もち」「ちまき」、お月見「月見だんご」と里芋料理、冬至の季節かぼちゃ・ゆず料理、正月「ぜんざい」、節分料理と「節分豆」、ひなまつり「ちらしずし・すまし汁」「三色だんご」等。</p> | <p>継続</p> | <p>バラエティに富んだ構成の献立を立てるため、パンや麺も使用しており、米飯給食週4.1回は最大限となるため。また、季節を感じとり、おいしい旬のものを食べることで郷土の特色を知ることができるような献立の作成に努めている。</p> | <p>（取組の成果） ・米飯給食を推進した。 （残された課題） ・米飯が主だと献立の自由さに制限がある中、バラエティに富んだメニュー作りに苦労している。</p> | <p>B</p> <p>・今後も、季節を感じとり、おいしい旬のものを食べることで郷土の特色を知ることができるような献立の作成に努めていく。子ども達に食に興味を持ってもらえるよう献立作りを工夫していく。</p> |
| | | | <p>令和元年度</p> <p>引き続き米飯給食を推進した。</p> <p>R1米飯給食実施回数 学校 週4.1回、保育園 3~4回（前年同数） （保育園は各園炊飯実施状況により異なる）</p> <p>学校給食では特に「あいちを食べる学校給食の日」「学校給食週間」に連動して、また保育園給食では日頃から、それぞれ「五目ごはん」「みそおでん」「ひきずり」「きしめん汁」といった愛知県の郷土食を取り入れている。また、季節の行事に合わせた食材を使った料理やデザートを提供を行っている。</p> <p>（例） 端午の節句「柏もち」「ちまき」、お月見「月見だんご」と里芋料理、冬至の季節かぼちゃ・ゆず料理、正月「ぜんざい」、節分料理と「節分豆」、ひなまつり「ちらしずし・すまし汁」「三色だんご」等。</p> | <p>継続</p> | <p>バラエティに富んだ構成の献立を立てるため、パンや麺も使用しており、米飯給食週4.1回は最大限となるため。また、季節を感じとり、おいしい旬のものを食べることで郷土の特色を知ることができるような献立の作成に努めている。</p> | | |
| | | | <p>平成30年度</p> <p>引き続き米飯給食を推進した。</p> <p>H30米飯給食実施回数 学校 週4.1回、保育園 3~4回（前年同数） （保育園は各園炊飯実施状況により異なる）</p> <p>学校給食では特に「あいちを食べる学校給食の日」「学校給食週間」に連動して、また保育園給食では日頃から、それぞれ「五目ごはん」「みそおでん」「ひきずり」「きしめん汁」といった愛知県の郷土食を取り入れている。また、季節の行事に合わせた食材を使った料理やデザートを提供を行っている。</p> <p>（例） 端午の節句「柏もち」「ちまき」、お月見「月見だんご」と里芋料理、冬至の季節かぼちゃ・ゆず料理、正月「ぜんざい」、節分料理と「節分豆」、ひなまつり「ちらしずし・すまし汁」「三色だんご」等。</p> | <p>継続</p> | <p>バラエティに富んだ構成の献立を立てるため、パンや麺も使用しており、米飯給食週4.1回は最大限となるため。また、季節を感じとり、おいしい旬のものを食べることで郷土の特色を知ることができるような献立の作成に努めている。</p> | | |
| | | | <p>平成29年度</p> <p>引き続き米飯給食を推進した。</p> <p>H29米飯給食実施回数 学校 週4.1回、保育園 3~4回（前年同数） （保育園は各園炊飯実施状況により異なる）</p> <p>学校給食では特に「あいちを食べる学校給食の日」「学校給食週間」に連動し、保育園給食では日頃から、「みそかつ」「五目ごはん」「みそおでん」といった愛知県の郷土食を取り入れている。また、季節の行事に合わせた食材を使った料理やデザートを提供を行っている。</p> <p>（例） 端午の節句「柏もち」「ちまき」、お月見「月見だんご」と里芋料理、冬至の季節かぼちゃ・ゆず料理、正月「ぜんざい」、節分料理と「節分豆」、ひなまつり「ちらしずし・すまし汁」「三色だんご」等。</p> | <p>継続</p> | <p>バラエティに富んだ構成の献立を立てるため、パンや麺も使用しており、米飯給食週4.1回は最大限となるため。また、季節を感じとり、おいしい旬のものを食べることで郷土の特色を知ることができるような献立の作成に努めている。</p> | | |
| | | | <p>平成28年度</p> <p>引き続き米飯給食を推進した。</p> <p>H28米飯給食実施回数 学校 週4.1回、保育園 3~4回（前年同数） （保育園は各園炊飯実施状況により異なる）</p> <p>学校給食では特に「あいちを食べる学校給食の日」「学校給食週間」に連動し、保育園給食では日頃から、「みそかつ」「五目ごはん」「みそおでん」「ひきずり」といった愛知県の郷土食を取り入れている。また、季節の行事に合わせた食材を使った料理やデザートを提供を行い、献立表のコラムで紹介している。</p> <p>（例） 端午の節句「柏もち」、お月見「月見だんご」と里芋料理、冬至の季節かぼちゃ・ゆず料理、正月「ぜんざい」「七輪がゆ」、節分料理と「節分豆」、ひなまつり「ちらしずし・すまし汁」「三色だんご」等。</p> | <p>継続</p> | <p>米飯給食が多くなると、バラエティに富んだ構成の献立が立てづらいが、必要な栄養量を摂取できるよう調理方法を工夫している。長久手市の郷土食として特徴的なもので、給食に使用できるメニューは限られてしまう。また、長久手市産の食材を使用したのが、天候等の影響もあり、利用予定どおり規定数量が入荷されるわけではない。</p> | | |

2-3. 子どもを中心とした農業体験の促進

| 項目 | 概要 | 担当課 | 関連する数値目標実績 | 前年度(令和2年度)の取組実績と令和3年度実施方針 | | | | 現行計画の実績と評価 | | | |
|---------------|--|---------|---|---------------------------|---|-------------|--|---|--|---------------------------|--|
| | | | | 取組実績 (施策・事業の実施状況) | 令和3年度の 実施方針 | 左記の判断理由 | 連携している市民団体 | 過去5年度を振り返って 取組の成果と残された課題 | 評価 | 今後の方向性 (充実・改善の方向) | |
| ア 農業 体験の促進 | 保育園や学校において、近隣の田畑を活用した農体験の機会を提供します。また、「教育ファーム」の取組を推奨します。 | 子ども未来課 | ⑦農作業に触れる市民の割合の増加 ・農業体験をしたことのある子どもの割合 目標値……90.0%以上 H30 82.9% (小84.7%、中80.7%) R02 86.3% (小88.4%、中83.5%) | 令和2年度 | 保育園の年長児を中心として、上郷地区の田んぼで田植えと稲刈りを行い、米を育てることについて実際に体験した。また、収穫した米でおにぎり・五平餅などを作ったり、園庭で育てた野菜を調理して食べることで通じて、自ら育てたものを味わう体験をした。また、芋掘り体験を行い、掘った芋を園で調理しおやつとして食した。また、芋を育てることについて実際に体験した。また、収穫した米でおにぎり・五平餅などを作ったり、園庭で育てた野菜を調理して食べることで通じて、自ら育てたものを味わう体験をした。 | 継続 | 今後も保育園児に米や野菜を自ら育てる体験をとおして食育を実施する。 | | 米作りや野菜作り、芋掘り体験を通して食べ物を大切にしている心が育っている。課題は、保育園児が今後も継続して作物を育てる環境を整えることであり、子どもの食べ物を大切にすることを育てていくこと。 | B | 今後も可能範囲内で保育園児が作物を育て、調理し、味わうことを経験させていく。 |
| | | | | 令和元年度 | 保育園の年長児を中心として、上郷地区の田んぼで田植えと稲刈りを行い、米を育てることについて実際に体験した。また、収穫した米でおにぎり・五平餅などを作ったり、園庭で育てた野菜を調理して食べることで通じて、自ら育てたものを味わう体験をした。 | 継続 | 今後も保育園児に米や野菜を自ら育てる体験をとおして食育を実施する。 | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 保育園の年長児を中心として、上郷地区の田んぼで田植えと稲刈りを行い、米を育てることについて実際に体験した。また、収穫した米でおにぎり・五平餅などを作ったり、園庭で育てた野菜を調理して食べることで通じて、自ら育てたものを味わう体験をした。 | 継続 | 今後も保育園児に米や野菜を自ら育てる体験をとおして食育を実施する。 | | | | |
| | | | | 平成29年度 | 保育園の年長児を中心として、上郷地区の田んぼで田植えと稲刈りを行い、米を育てることについて実際に体験した。また、収穫した米でおにぎり・五平餅などを作ったり、園庭で育てた野菜を調理して食べることで通じて、自ら育てたものを味わう体験をした。 | 継続 | 今後も保育園児に米や野菜を自ら育てる体験をとおして食育を実施する。 | | | | |
| | | | | 平成28年度 | 保育園の年長児を中心として、上郷地区の田んぼで田植えと稲刈りを行い、米を育てることについて実際に体験した。また、収穫した米でおにぎり・五平餅などを作ったり、園庭で育てた野菜を調理して食べることで通じて、自ら育てたものを味わう体験をした。 | 継続 | 田植えと稲刈りを体験する。収穫した米や園庭で育てた野菜を調理して食べる体験を行う。 | | | | |
| | | みどりの推進課 | ⑦農作業に触れる市民の割合の増加 ・農業体験をしたことのある子どもの割合 目標値……90.0%以上 H30 82.9% (小84.7%、中80.7%) R02 86.3% (小88.4%、中83.5%) | 令和2年度 | 農業校と保育園が連携した芋掘り体験を実施した。 | 継続 | 芋掘り体験を行うことにより、保育園児に農体験の機会を提供することができた。 | (取組の成果) 保育園児に農業体験を提供することで、こどもたちの食への好奇心の増幅、発見等に繋がった。 | B | 引き続きこどもたちへの農業体験の場を提供していく。 | |
| | | | | 令和元年度 | 農業校と保育園が連携した芋掘り体験を実施した。 | 継続 | 芋掘り体験を行うことにより、保育園児に農体験の機会を提供することができた。 | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 農業校と保育園が連携した芋掘り選定を実施した。 | 継続 | 芋掘り体験を行うことにより、保育園児に農体験の機会を提供することができた。 | | | | |
| | | | | 平成29年度 | 農業校と保育園が連携した芋掘り選定を実施した。 | 継続 | 芋掘り体験を行うことにより、保育園児に農体験の機会を提供することができた。 | | | | |
| | | 教育総務課 | ⑦農作業に触れる市民の割合の増加 ・農業体験をしたことのある子どもの割合 目標値……90.0%以上 H30 82.9% (小84.7%、中80.7%) R02 86.3% (小88.4%、中83.5%) | 令和2年度 | 小学校については、学校農園(ない学校ではプランター等を活用)において、低学年の生活科では栽培と調理(市小は近隣畑を活用)、中・高学年の理科では植物の観察を主たる目的として活用している。また、中学校では南中、北中に特別支援学級用の農園があり、栽培、観察及び調理を主たる目的として活用している。なお、通常学級の授業のうち技術科においては、栽培を目的とした野菜等のプランター栽培を行っている。 | 継続 | 学校農園を活用し、引き続き農体験の機会を設けていきたい。 | 計画どおり実施し、目標達成している。 | A | 継続して実施する。 | |
| | | | | 令和元年度 | 小学校については、学校農園(ない学校ではプランター等を活用)において、低学年の生活科では栽培と調理(市小は近隣畑を活用)、中・高学年の理科では植物の観察を主たる目的として活用している。また、中学校では南中、北中に特別支援学級用の農園があり、栽培、観察及び調理を主たる目的として活用している。なお、通常学級の授業のうち技術科においては、栽培を目的とした野菜等のプランター栽培を行っている。 | 継続 | 学校農園を活用し、引き続き農体験の機会を設けていきたい。 | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 小学校については、学校農園(ない学校ではプランター等を活用)において、低学年の生活科では栽培と調理(市小は近隣畑を活用)、中・高学年の理科では植物の観察を主たる目的として活用している。また、中学校では南中、北中に特別支援学級用の農園があり、栽培、観察及び調理を主たる目的として活用している。なお、通常学級の授業のうち技術科においては、栽培を目的とした野菜等のプランター栽培を行っている。 | 継続 | 学校農園を活用し、引き続き農体験の機会を設けていきたい。 | | | | |
| 平成29年度 | 小学校については、6校全てに学校農園があり、低学年の生活科では栽培と調理、中・高学年の理科では植物の観察を主たる目的として活用している。また、中学校では3校全てに特別支援学級用の農園があり、栽培、観察及び調理を主たる目的として活用している。なお、通常学級の授業のうち技術科においては、栽培を目的とした野菜等のプランター栽培を行っている。 | | | 継続 | 学校農園を活用し、引き続き農体験の機会を設けていきたい。 | | | | | | |
| 平成こども塾 | ①食育の関心の向上 ・食育に関心のある市民(保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% ⑥家族や友人等と一緒に食事を摂る市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 96.8% R02 91.6% ⑦農作業に触れる市民の割合の増加 ・農業体験をしたことのある子どもの割合 目標値……90.0%以上 H30 82.9% (小84.7%、中80.7%) R02 86.3% (小88.4%、中83.5%) ⑧食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」を言う市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 91.7% R02 88.1% | 令和2年度 | 一年を通じて、土作りや種まき・苗植えから収穫までの体験を行った。本年度における実施回数は37回、1,316人が参加した(食体験は中止し、代わりに農業体験のみ実施した)。 | 継続 | 平成こども塾サポート隊事業委託の中で、食と農班があり、その活動の中で1年間を通じて農業についてのプログラムを実施できた。(4、5月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を中止した。) | 平成こども塾サポート隊 | (取組の成果) 平成こども塾サポート隊食と農班実施の農業プログラムで、一年を通じて、土作りや種まき・苗植えから収穫までの体験を行った。過去5年間合計して237回実施し、7,959人が参加した。 | A | 現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、現在プログラム実施にあたり、参加者数を減らしたうえ、活動時間を短くするなどの対策を取っている。新型コロナウイルス感染症の終息後は、プログラムの上記等の制限を解除することでより多くの市民に農業体験の機会を提供できるようになり、ひいては、参加市民が農作物の生産に関わる時間を増やすことにつながる。 | | |
| | | 令和元年度 | 一年を通じて、土作りや種まき・苗植えから収穫して食べるまでの体験を行っている。本年度における回数は51回、1,618人が参加した。 | 継続 | 平成こども塾サポート隊事業委託の中で、食と農班があり、その活動の中で1年間を通じて農業と、そこで採れた野菜や米等で食プログラムを実施できた。 | | | | | | |
| | | 平成30年度 | 一年を通じて、土作りや種まき・苗植えから収穫して食べるまでの体験を行っている。本年度における回数は51回、1,618人が参加した。 | 継続 | 平成こども塾サポート隊事業委託の中で、食と農班があり、その活動の中で1年間を通じて農業と、そこで採れた野菜や米等で食プログラムを実施できた。 | | | | | | |
| | | 平成29年度 | 一年を通じて、土作りや種まき・苗植えから収穫して食べるまでの体験を行っている。各年度における回数、参加者は以下のとおり。 平成29年度 49回 1,437人参加 | 継続 | 平成こども塾サポート隊事業委託の中で、食と農班があり、その活動の中で1年間を通じて農業と、そこで採れた野菜や米等で食プログラムを実施した。 | | | | | | |
| | | 平成28年度 | 一年を通じて、土作りや種まき・苗植えから収穫して食べるまでの体験を行っている。各年度における回数、参加者は以下のとおり。 平成28年度 47回 1,871人参加 | 継続 | 高齢化の進むボランティアの現状の中で、こども塾を築立っていたOB・OGが数多く存在する。そのため、少しでも平成こども塾のプログラムに関わってもらえるよう、連絡を取り参加を呼びかけている。 | | | | | | |

【令和3年度の方針】

| | |
|----|----------------|
| 継続 | 現行どおり、取組を継続する |
| 充実 | 取組内容の充実を図る |
| 改善 | 取組内容の見直し、改善を図る |
| 縮小 | 取組の規模を縮小する |
| 廃止 | 取組を廃止する |

【取組の評価】

| | |
|---|-----------------------|
| A | 計画どおり実施し、目標を達成 |
| B | 計画どおり実施し、目標に近づき効果を感じる |
| C | 実施したが、目標達成にはほど遠い |
| D | 実施できていない |

(3) 食を通じて環境に優しい暮らしを築きます

3-1. 環境に配慮した食生活の推進

| 項目 | 概要 | 担当課 | 関連する数値目標実績 | 前年度(令和2年度)の取組実績と令和3年度実施方針 | | | | 現行計画の実績と評価 | | | |
|-------------------------------------|---|---|---|---|---|---------|---|------------------------------|--|----------------------|--|
| | | | | 取組実績 (施策・事業の実施状況) | 令和3年度の 実施方針 | 左記の判断理由 | 連携している市民団体 | 過去5年度を振り返って 取組の成果と残された課題 | 評価 | 今後の方向性 (充実・改善の方向) | |
| ア むだや 廃棄の少 ない食事 づくりの推 進 | 環境と食の関わりについて学習する機会を提供し、環境に優しい料理の普及啓発に取り組めます。 | 環境課 | ⑩食を通じて環境に優しい暮らしに取り組む市民(保護者)の割合 目標値……50.0% 以上 H30 67.0% R02 72.3% | 令和2年度 | 東邦ガス㈱ガスエネルギー館の協力で、親子エコ・クッキング教室の開催を検討していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。 | 継続 | 一般廃棄物処理基本計画において、「ごみの発生を抑制する」という施策があり、その中で「生ごみ減量の促進」や「エコクッキングの普及・啓発」とあるため。 | | 毎回抽選になるほど大変人気の企画で、当初は大人のみ参加に限定していたが、親子を対象を拡大することで、子どもへの環境学習としての側面も持ち合わせるものとなった。生ごみの減量の取組の一環として実施しているが、市民のごみ減量意識の醸成だけにとどまらず、実際にごみの減量につながるような内容を工夫したい。 | B | |
| | | | | 令和元年度 | 親子エコ・クッキング教室(東邦ガス㈱ガスエネルギー館協力) 親子10組22名参加 調理実習を通して、食材をなるべく使い切ることや必要以上に生ごみを出さないことなどの生ごみ減量のアドバイスや、環境講座を実施した。また、令和元年度から参加料を徴収し、講師の充実や地元食材として米粉を利用したメニューにチャレンジした。 | 継続 | 一般廃棄物処理基本計画において、「ごみの発生を抑制する」という施策があり、その中で「生ごみ減量の促進」や「エコクッキングの普及・啓発」とあるため。 | | | | |
| | | | | 平成30年度 | エコ・クッキング教室(東邦ガス㈱ガスエネルギー館協力) 親子10組22名参加 食材をなるべく使い切ることや必要以上に生ごみを出さないことなどの生ごみ減量のアドバイスを調理実習を通して行った。また、エコに関する講義、環境講座を実施した。 | 充実 | 一般廃棄物処理基本計画において、「ごみの発生を抑制する」という施策があり、その中で「生ごみ減量の促進」や「エコクッキングの普及・啓発」とあるため。 | | | | |
| | | | | 平成29年度 | エコ・クッキング教室(東邦ガス㈱ガスエネルギー館協力) 大人20名参加 食材をなるべく使い切ることや必要以上に生ごみを出さないことなどの生ごみ減量のアドバイスを調理実習を通して行った。また、エコに関する講義、環境講座を実施した。 | 継続 | 一般廃棄物処理基本計画において、「ごみの発生を抑制する」という施策があり、その中で「生ごみ減量の促進」や「エコクッキングの普及・啓発」とあるため。 | | | | |
| | | | | 平成28年度 | エコ・クッキング教室(東邦ガス㈱協力) 大人20名参加 食材をなるべく使い切ることや必要以上に生ごみを出さないことなどの生ごみ減量のアドバイスを調理実習を通して行い、実習後は、地球温暖化やエネルギーに関する講座を実施した。 | 継続 | 7/7実施 メニューの傾向を変更。 新規参加者の申込が増加。リピーターが多い。 | | | | |
| | | | | 令和2年度 | 引き続き、あぐりん村に野菜くずを使った堆肥化装置を設置した。 | 継続 | あぐりん村に出荷された農産物の廃棄量を減らすことができたため。 | 環境配慮の側面からも、堆肥化は有効であり、継続していく。 | | | |
| | 令和元年度 | 引き続き、あぐりん村に野菜くずを使った堆肥化装置を設置した。 | 継続 | あぐりん村に出荷された農産物の廃棄量を減らすことができたため。 | | | | | | | |
| | 平成30年度 | 引き続き、あぐりん村に野菜くずを使った堆肥化装置を設置した。 | 継続 | あぐりん村に出荷された農産物の廃棄量を減らすことができたため。 | | | | | | | |
| | 平成29年度 | あぐりん村に野菜くずを使った堆肥化装置を設置した。 | 継続 | あぐりん村に出荷された農産物の廃棄量を減らすことができたため。 | | | | | | | |
| | 平成28年度 | あぐりん村に野菜くずを使った堆肥化装置を設置している。 | 継続 | 引き続き実施する。 | | | | | | | |
| | 令和2年度 | 食事を残さず食べることができるよう、園児一人ひとりにあった量の配膳を心がけた。また、食に関して感謝の気持ちと食べ物を大切にすることを身につけるようとした。 | 継続 | 今後も、食に関して感謝の気持ちと食べ物を大切にすることを身につけるようするため継続して事業を実施する。 | 子どもの状態に応じた配食をすることで、子どもたちが残さず食べるという意識を持つことができる。 | A | みんなが意欲的に食べられるように働きかけ、家庭にも協力をお願いする。 | | | | |
| | 令和元年度 | 食事を残さず食べることができるよう、園児一人ひとりにあった量の配膳を心がけた。また、食に関して感謝の気持ちと食べ物を大切にすることを身につけるようとした。 | 継続 | 今後も、食に関して感謝の気持ちと食べ物を大切にすることを身につけるようするため継続して事業を実施する。 | | | | | | | |
| 平成30年度 | 食事を残さず食べることができるよう、園児一人ひとりにあった量の配膳を心がけた。また、食に関して感謝の気持ちと食べ物を大切にすることを身につけるようとした。 | 継続 | 今後も、食に関して感謝の気持ちと食べ物を大切にすることを身につけるようのため継続して事業を実施する。 | | | | | | | | |
| 平成29年度 | 食事を残さず食べることができるよう、園児一人ひとりにあった量の配膳を心がけた。また、食に関して感謝の気持ちと食べ物を大切にすることを身につけるようとした。 | 継続 | 今後も、食に関して感謝の気持ちと食べ物を大切にすることを身につけるようのため継続して事業を実施する。 | | | | | | | | |
| 平成28年度 | 食事を残さず食べることができるよう、園児ひとり一人にあった量の配膳を心がけた。また、食に関して感謝の気持ちと食べ物を大切にすることを身につけるようとした。 | 継続 | 食べ残しを減らしたり、完食した達成感を感じることができるように、園児ひとり一人にあった量の配膳を行う。また、食に関して感謝の気持ちと食べ物を大切にすることを身につけるようにする。 | | | | | | | | |
| 令和2年度 | 学校給食では、食に対する感謝の気持ちを育む活動として、食べ残しを減らす取組、また環境の面では食材の無駄を出さないエコクッキングの普及啓発等を行っている。 | 継続 | 引き続き、食べ残しを減らす取組やエコクッキングの普及啓発をはかっている。コロナ禍で調理実習は控えているため、メニュー配布など違う方法により啓発をはかっている。 | 計画どおり実施し、目標を達成 | | | | A | 継続して実施する。 | | |
| 令和元年度 | 学校給食では、食に対する感謝の気持ちを育む活動として、食べ残しを減らす取組、また環境の面では食材の無駄を出さないエコクッキングの普及啓発等を行っている。 | 継続 | 引き続き、食べ残しを減らす取組やエコクッキングの普及啓発をはかっている。コロナ禍で調理実習は控えているため、メニュー配布など違う方法により啓発をはかっている。 | | | | | | | | |
| 平成30年度 | 学校給食では、食に対する感謝の気持ちを育む活動として、食べ残しを減らす取組、また環境の面では食材の無駄を出さないエコクッキングの普及啓発等を行っている。 | 継続 | 引き続き、食べ残しを減らす取組やエコクッキングの普及啓発をはかっている。 | | | | | | | | |
| 平成29年度 | 学校給食では、食に対する感謝の気持ちを育む活動として、食べ残しを減らす取組、また環境の面では食材の無駄を出さないエコクッキングの普及啓発等を行っている。 | 継続 | 引き続き、食べ残しを減らす取組やエコクッキングの普及啓発をはかっている。 | | | | | | | | |
| 平成28年度 | 学校給食では、食に対する感謝の気持ちを育む活動として、食べ残しを減らす取組、また環境の面では食材の無駄を出さないエコクッキングの普及啓発等を行っている。 | 継続 | 引き続き、食べ残しを減らす取組やエコクッキングの普及啓発をはかっている。 | | | | | | | | |

3-2.「地産地消」・「旬産旬消」の推進

| 項目 | 概要 | 担当課 | 関連する数値目標実績 | 前年度(令和2年度)の取組実績と令和3年度実施方針 | | | 現行計画の実績と評価 | | | | |
|----------------|---|---------|--|---------------------------|--|---------|--|-----------------------------|---|----------------------|---|
| | | | | 取組実績 (施策・事業の実施状況) | 令和3年度の実施方針 | 左記の判断理由 | 連携している市民団体 | 過去5年度を振り返って 取組の成果と残された課題 | 評価 | 今後の方向性 (充実・改善の方向) | |
| ア 地元農産物の積極的な活用 | 田園バレー交流施設(あぐりん村)やJAグリーンセンター等を交流拠点とした、生産者と消費者の距離を近づける取組の推進を図ります。 | みどりの推進課 | ◎地元の農産物を購入する市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 31.0% R02 32.1% | 令和2年度 | 地域に根ざした給食作りのため、長久手給食食材生産会やあぐりん村と連携し、市内産の青果物を取り入れるようにした。 | 継続 | 食育中間アンケートの結果、地元の野菜を購入する市民の割合が減っていることが分かり、普及啓発に引き続き力を入れる必要があるため。 | 長久手給食食材生産会 | (取組の成果) 児童たちに地元産野菜を提供でき、地産地消に貢献できている。 (残された課題) 地元産野菜は価格が高く、納入量の安定性がない。 | B | 引き続き学校給食に地元産野菜を提供できるよう、生産会に呼びかけを行っていく。 |
| | | | | 令和元年度 | 地域に根ざした給食作りのため、長久手給食食材生産会やあぐりん村と連携し、市内産の青果物を取り入れるようにした。 | 継続 | 食育中間アンケートの結果、地元の野菜を購入する市民の割合が減っていることが分かり、普及啓発に引き続き力を入れる必要があるため。 | 長久手給食食材生産会 | | | |
| | | | | 平成30年度 | 地域に根ざした給食作りのため、長久手給食食材生産会やあぐりん村と連携し、市内産の青果物を取り入れるようにした。 | 改善 | 食育中間アンケートの結果、地元の野菜を購入する市民の割合が減っていることが分かり、普及啓発に力を入れる必要があるため。 | 長久手給食食材生産会 | | | |
| | | | | 平成29年度 | 地域に根ざした給食作りのため、長久手給食食材生産会やあぐりん村と連携し、市内産の青果物を取り入れるようにした。 | 継続 | 気象条件等により市内産農産物の安定確保は難しいが、生産者やあぐりん村に協力を求める必要があるため。 | 長久手給食食材生産会 | | | |
| | | | | 平成28年度 | 地域に根ざした給食づくりのため、長久手市給食食材生産会やあぐりん村と連携し、青果物などを可能な限り取り入れるようにした。 | 継続 | 長久手産食材について、給食用に入手するよう生産者に協力を依頼しているが、安定確保が難しい状況である。 | 長久手市給食食材生産会 | | | |
| | 学校給食において、できる限り長久手市産農産物の利用に努めるとともに、愛知県産の米・野菜の利用による地産地消を進めていきます。 | 給食センター | ◎地元の農産物を購入する市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 31.0% R02 32.1% | 令和2年度 | 引き続き、給食の食材に地元産の利用を促進した。地域に根ざした給食づくりのため、長久手給食食材生産会やあぐりん村と連携し、青果物などを可能な限り取り入れるようにした。 また、みどりの推進課と給食用物資納品希望規格を協議した。 【地元産農産物の全体に占める割合(重量ベース)】※米飯、牛乳除く。 R2 長久手市産2.07%、愛知県産30.22% (R1) 長久手市産1.61%、愛知県産28.40% (H30) 長久手市産1.48%、愛知県産36.10% | 継続 | 今後は、食材生産会や地元JAと連携を強化し、納品規格希望をもとに長久手市産野菜の使用を増やしていく。令和2年度は、愛知県産食材の利用推進に努めたが、天候不順や令和3年4月5月の新型コロナウイルス感染症対策に係る学校臨時休業で旬の県産野菜が使用できず、前年度比619kg減、1.20%減となった。 | 長久手給食食材生産会 | (取組の成果) ・地域に根ざした給食づくりのため、長久手給食食材生産会やあぐりん村と連携し、青果物などを可能な限り取り入れることができた。 (残された課題) ・天候や生産状況により青果物の使用が困難になることが度々おこっている。 | B | ・食材生産会や地元JAと連携を強化し、納品規格希望をもとに長久手市産野菜の使用を増やしていく。 |
| | | | | 令和元年度 | 引き続き、給食の食材に地元産の利用を促進した。地域に根ざした給食づくりのため、長久手給食食材生産会やあぐりん村と連携し、青果物などを可能な限り取り入れるようにした。 【地元産農産物の全体に占める割合(重量ベース)】※米飯、牛乳除く。 R1 長久手市産1.61%、愛知県産28.40% (H30) 長久手市産1.48%、愛知県産36.10% (H29) 長久手市産1.20%、愛知県産42.79% | 継続 | 生産者側に協力を依頼してできる限り努めてもらっているが、長久手市産食材の安定確保が依然として難しい状況である。また、愛知県産食材の利用推進に努めたが、天候不順や令和2年3月の新型コロナウイルス感染症対策に係る学校臨時休業でだいこんやキャベツを始めとした旬の県産野菜が使用できず、前年度比17,788kg減、7.58%減となった。 | 長久手給食食材生産会 | | | |
| | | | | 平成30年度 | 引き続き、給食の食材に地元産の利用を促進した。地域に根ざした給食づくりのため、長久手給食食材生産会やあぐりん村と連携し、青果物などを可能な限り取り入れるようにした。 【地元産農産物の全体に占める割合(重量ベース)】※米飯、牛乳除く。 H30 長久手産0.70%、愛知県産44.13% (H29) 長久手産0.57%、愛知県産55.01% (H28) 長久手産0.85%、愛知県産56.25% (H27) 長久手産1.72%、愛知県産43.13% | 継続 | 生産者側に協力を依頼してできる限り努めてもらっているが、長久手市産食材の安定確保が依然として難しい状況である。また、愛知県産食材の利用推進に努めた結果、前年度比42,733kg減、19.86%減となった。 | 長久手給食食材生産会 | | | |
| | | | | 平成29年度 | 引き続き、給食の食材に地元産の利用を促進した。地域に根ざした給食づくりのため、長久手給食食材生産会やあぐりん村と連携し、青果物などを可能な限り取り入れるようにした。 地元産農産物の全体に占める割合(重量ベース) H29 長久手産0.57%、愛知県産55.01% (H28) 長久手産1.01%、愛知県産52.75% (H27) 長久手産1.46%、愛知県産47.30% | 継続 | 生産者側に協力を依頼してできる限り努めてもらっているが、長久手市産食材の安定確保が依然として難しい状況であるため、愛知県産食材の利用推進を行った結果、前年度比37,997kg増、2.83%増となった。 | 給食食材生産者会 | | | |
| | | | | 平成28年度 | 引き続き、給食の食材に地元産の利用を促進した。地域に根ざした給食づくりのため、長久手給食食材生産会やあぐりん村と連携し、青果物などを可能な限り取り入れるようにした。 地元産農産物の全体に占める割合(重量ベース) H28 長久手産1.01%、愛知県産52.75% (H27) 長久手産1.46%、愛知県産47.30% | 継続 | 長久手市産食材の安定確保が依然として難しい状況である。生産者側に協力を依頼してできる限り努めてもらっているが、重量ベースで前年度比1,909kgの減少、全体に占める割合は前年度比0.45%減少している。愛知県産食材の利用推進も同時に行った結果、愛知県全体で前年度比8,919kg増、5.45%増となった。 | 給食食材生産者会 | | | |

3-3. 都市農村交流の推進

| 項目 | 概要 | 担当課 | 関連する数値目標実績 | 前年度(令和2年度)の取組実績と令和3年度実施方針 | | | 現行計画の実績と評価 | | | | | | | |
|--------------|---|--------|--|---------------------------|--|---------|---|-----------------------------|--|----------------------|---|---|---|--|
| | | | | 取組実績 (施策・事業の実施状況) | 令和3年度の 実施方針 | 左記の判断理由 | 連携している市民団体 | 過去5年度を振り返って 取組の成果と残された課題 | 評価 | 今後の方向性 (充実・改善の方向) | | | | |
| ア 農を通じた交流の促進 | 都市部と農村部が隣接している本市の地理的条件を活かして、食物が生長する課程を地域で体験することによって、両地域の交流を促進します。 | 平成 とも塾 | ①食育の関心の向上 ・食育に関心のある市民(保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% ②農作業に触れる市民の割合の増加 ・農業体験をしたことのある子どもの割合 目標値……90.0%以上 H30 82.9% (小84.7%、中80.7%) R02 86.3% (小88.4%、中83.5%) ③食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」を言う市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 91.7% R02 88.1% ④食を通じて環境に優しい暮らしに取り組み市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 67.0% R02 72.3% | 令和2年度 | 平成 とも塾サポート隊食と農の活動において、農業への取組は、畑作、稲作を通じて、土作りから栽培管理、除草作業、収穫、を行うプログラムを37回、1,316人が参加した(食体験は中止し、代わりに農業体験のみ実施した)。4、5月は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からプログラムを中止したため、プログラム実施数は前年度比で減少している。 | 継続 | 平成 とも塾サポート隊事業委託の中で、食と農があり、その活動の中で1年間を通じて農作業と、そこで採れた野菜や米等で食プログラムを実施できたため | 平成 とも塾サポート隊 | (取組の成果) 1年間通じて活動する「こどもファーム」を中心とした農業プログラムにより、農業を体験できた児童・生徒が増加した。その結果、両地域の交流を促進することができた。 過去5年間合計して237回実施し、7,959人が参加した。 (残された課題) 新型コロナウイルス感染症の早期終息。 | B | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、現在プログラム実施にあたり、参加者数を減らしたうえ、活動時間を短くするなどの対策を取っている。 新型コロナウイルス感染症の終息後は、プログラムの上記等の制限を解除することでより多くの市民に農業体験の機会を提供できるようになり、ひいては、地域の交流を促進することができる。 | | | |
| | | | | 令和元年度 | 平成 とも塾サポート隊食と農の活動において、農業への取組は、畑作、稲作を通じて、土作りから栽培管理、除草作業、収穫、そしてそれらの調理を行うプログラムを51回、1,618人が参加した。 | 継続 | 平成 とも塾サポート隊事業委託の中で、食と農があり、その活動の中で1年間を通じて農作業と、そこで採れた野菜や米等で食プログラムを実施できたため | 平成 とも塾サポート隊 | | | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 平成 とも塾サポート隊食と農の活動において、農業への取組は、畑作、稲作を通じて、土作りから栽培管理、除草作業、収穫、そしてそれらの調理を行うプログラムを52回、1,567人が参加している。 | 継続 | 平成 とも塾サポート隊事業委託の中で、食と農があり、その活動の中で1年間を通じて農作業と、そこで採れた野菜や米等で食プログラムを実施できたため | 平成 とも塾サポート隊 | | | | | | |
| | | | | 平成29年度 | 平成 とも塾サポート隊食と農の活動において、農業への取組は、畑作、稲作を通じて、土作りから栽培管理、除草作業、収穫、そしてそれらの調理を行うプログラムを実施している。 | 継続 | 平成 とも塾サポート隊事業委託の中で、食と農があり、その活動の中で1年間を通じて農作業と、そこで採れた野菜や米等で食プログラムを実施した。 | 平成 とも塾サポート隊 | | | | | | |
| | | | | 平成28年度 | 地域のボランティアが主体となり、「食と農」「ものづくり」「自然観察」などをテーマとしたプログラムをそれぞれのグループで行っている。 | 継続 | 平成 とも塾に関わっているボランティアの育成を支援するとともに、地域の伝統文化に詳しいボランティア団体と連携して事業を実施することにより、平成 とも塾を支援するボランティアを育成するとともに、隣接で活動する市民団体との連携を図りたい。 | 平成 とも塾サポート隊 | | | | | | |
| | | | | 令和2年度 | あぐりん村利用者数 R2 435810人 長久手農楽校修了者数 R2 34人(基礎コース24人、向上コース10人) 市民農園利用者数 R2 66人 | 充実 | あぐりん村の課題として、売場面積の不足により野菜の陳列が限定されているため。また、近年利用者数が伸び悩んでいるため。 | | | | | あぐりん村の経営状況、農楽校と市民農園の利用者数は決して悪くはない水準で保たれている。地産地消や農業への関心が高いと思われる。 | B | あぐりん村は増築工事を控えており、さらなる利用者数の増加が見込まれる。農楽校と市民農園についても、知名度や人気もさらに上がるようなPRをしていく必要がある。 |
| | | | | 令和元年度 | あぐりん村利用者数 R1 442,220人 まちなか農縁(仏ヶ根) 大学生と連携して、収穫体験、夏野菜の栽培を行った。 長久手農楽校修了者数 R1 44人(基礎コース36人、向上コース8人) 市民農園利用者数 R1 66人 | 充実 | あぐりん村の課題として、売場面積の不足により野菜の陳列が限定されているため。また、近年利用者数が伸び悩んでいるため。 | 名古屋外国語大学 城月ゼミ(まちなか農縁) | | | | | | |
| | | | | 平成30年度 | あぐりん村利用者数 H30 442,112人 まちなか農縁(仏ヶ根) 大学生と連携して、大豆種まき体験、収穫体験、夏野菜の栽培を行った。 長久手農楽校修了者数 H30 41人(基礎コース28人、向上コース13人) 市民農園利用者数 H30 66人 | 充実 | あぐりん村の課題として、売場面積の不足により出荷者を限定しているため。また、近年利用者数が伸び悩んでいるため。 | 名古屋外国語大学 城月ゼミ(まちなか農縁) | | | | | | |
| | | | | 平成29年度 | あぐりん村利用者数 H29 444,815人 まちなか農縁(仏ヶ根) 大学生と連携して、大豆種まき体験、収穫体験、夏野菜の栽培を行った。 長久手農楽校修了者数 H29 29人(基礎コース20人、向上コース9人) 市民農園利用者数 H29 66人 | 充実 | あぐりん村の課題として、売場面積の不足により出荷者を限定しているため。また、近年利用者数が伸び悩んでいるため。 | | | | | | | |
| | | | | 平成28年度 | あぐりん村利用者数 H28 478,390人 まちなか農縁(仏ヶ根) 大学生と連携して、大豆種まき体験、収穫体験、夏野菜の栽培を行った。 長久手農楽校修了者数 H28 33人(基礎コース23人、向上コース10人) 市民農園利用者数 H28 66人 | 充実 | ・あぐりん村について：売場面積増築と新たな集客に向けて、再整備事業を進めていく。 ・まちなか農縁について：引き続き農業体験を継続しながら、地域住民を巻き込んだイベントを実施する。 ・農楽校について：実習内容の充実に向けて収穫体験や販売実習などのイベントを行う。また、修了生へのフォローアップに向けて解決策を検討する。 ・市民農園について：環境整備、講習会や花植え会への参加を促し、利用者同士の交流を促進する。 | 名古屋外国語大学 城月ゼミ | | | | | | |

長久手市食育推進計画 令和3年度調査シート／第2次長久手市食育推進計画の実績と評価

【令和3年度の方針】

| | |
|----|----------------|
| 継続 | 現行どおり、取組を継続する |
| 充実 | 取組内容の充実を図る |
| 改善 | 取組内容の見直し、改善を図る |
| 縮小 | 取組の規模を縮小する |
| 廃止 | 取組を廃止する |

【取組の評価】

| | |
|---|-----------------------|
| A | 計画どおり実施し、目標を達成 |
| B | 計画どおり実施し、目標に近づき効果を感じる |
| C | 実施したが、目標達成にはほど遠い |
| D | 実施できていない |

(4) 食育を支える取組を推進します

4-1. 食育に関わる多様な活動の促進

| 項目 | 概要 | 担当課 | 関連する数値目標実績 | 前年度(令和2年度)の取組実績と令和3年度実施方針 | | | | 現行計画の実績と評価 | | | |
|---------------|---|---------|------------|---------------------------|--|---------|--|-----------------------------|------------------------|----------------------|-------------------------|
| | | | | 取組実績 (施策・事業の実施状況) | 令和3年度の 実施方針 | 左記の判断理由 | 連携している市民団体 | 過去5年度を振り返って 取組の成果と残された課題 | 評価 | 今後の方向性 (充実・改善の方向) | |
| ア ボランティア活動の支援 | 食に関する根本的な知識の普及を図りつつ、市民の取組が活性化されるよう、環境の整備や情報の共有化を図ります。 | たつせがある課 | (該当なし) | 令和2年度 | 南小校区共生ステーションについては、整備完了しました。 | 継続 | 地域の課題を地域で解決するためのつながりづくりの拠点施設の整備に向けて事業が進んでいるため。 | 市民 | 4箇所の共生ステーションの整備を完了しました | A | 新規の共生ステーションの整備の予定はありません |
| | | | | 令和元年度 | 地域共生ステーション整備に向けた工事を、北小学校区及び南小学校区で実施し、北小校区共生ステーションについては、整備完了しました。 | 継続 | 地域のための様々な取組を行う拠点となる施設の整備に向けて事業が進んでいるため。 | 市民 | | | |
| | | | | 平成30年度 | 地域共生ステーション整備に向けたワークショップを、北小学校区及び南小学校区で実施しました。 | 継続 | 地域のための様々な取組を行う拠点となる施設の整備に向けて事業が進んでいるため。 | 市民 | | | |
| | | | | 平成29年度 | ※たつせがある課では食育に関わる多様な活動の促進事業を行っておりません。 | | | | | | |
| | | | | 平成28年度 | ※たつせがある課では食育に関わる多様な活動の促進事業を行っておりません。 | | | | | | |

4-2. 食育推進のための連携・協働体制の構築

| 項目 | 概要 | 担当課 | 関連する数値目標実績 | 前年度(令和2年度)の取組実績と令和3年度実施方針 | | | | 現行計画の実績と評価 | | | |
|---------------------|---|---------|---|---------------------------|---|---------|---|-----------------------------|--|----------------------|---------------------------|
| | | | | 取組実績 (施策・事業の実施状況) | 令和3年度の 実施方針 | 左記の判断理由 | 連携している市民団体 | 過去5年度を振り返って 取組の成果と残された課題 | 評価 | 今後の方向性 (充実・改善の方向) | |
| ア 食育に取り組み関係者との連携の推進 | 保育園、学校等において、子どもの健全な食生活の実践と豊かな人間形成を図るため、専門家や地域のボランティア等と連携した施策を行います。 地域ボランティアや学校と連携しながら、食に関する指導の充実を目指します。 食育推進のための(仮称)長久手食育推進支援会議を開催し、情報交換や意見調整を行います。 | 子ども未来課 | ⑩食育の推進に関わるボランティア数の増加 目標値……350人以上 H30 244人 R02 201人 | 令和2年度 | 農楽校と連携して実施した芋掘り体験により、多世代交流を図った。 | 継続 | 農楽校と連携し、今後も保育園児に芋掘り体験を行うことにより、食育を行う。 | | 農楽校と連携して作物を育てる中で、農楽校の方や保育園おたすけたいの方など、地域の方達とふれあいながら行っている。 | A | 今後も継続して計画・実施していく。 |
| | | | | 令和元年度 | 農楽校と連携して実施した芋掘り体験により、多世代交流を図った。 | 継続 | 農楽校と連携し、今後も保育園児に芋掘り体験を行うことにより、食育を行う。 | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 農楽校と連携して実施した芋掘り体験により、多世代交流を図った。 | 継続 | 農楽校と連携し、今後も保育園児に芋掘り体験を行うことにより、食育を行う。 | | | | |
| | | | | 平成29年度 | 農楽校と連携して実施した芋掘り体験により、多世代交流を図った。 | 継続 | 農楽校と連携し、今後も保育園児に芋掘り体験を行うことにより、食育を行う。 | | | | |
| | | | | 平成28年度 | 農楽校と連携して実施した芋掘り体験により、多世代交流を図った。 | 継続 | 農楽校と連携し、芋掘り体験等により多世代交流を図る。 | | | | |
| | | みどりの推進課 | ⑪食育の推進に関わるボランティア数の増加 目標値……350人以上 H30 244人 R02 201人 | 令和2年度 | 長久手市食育推進支援会議を10月、3月の2回開催した。 | 継続 | 長久手市の食育活動の進捗状況や課題について意見を仰ぎ、食育活動を推進していく必要があるため。 | | 支援会議を開催し、計画の進捗状況を客観的に評価することに繋がっている。 | B | 支援会議から直接発信されるような取組を検討したい。 |
| | | | | 令和元年度 | 長久手市食育推進支援会議を9月に1回開催した。 | 継続 | 長久手市の食育活動の進捗状況や課題について意見を仰ぎ、食育活動を推進していく必要があるため。 | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 長久手市食育推進支援会議を8月、1月の2回開催した。 | 継続 | 長久手市の食育活動の進捗状況や課題について意見を仰ぎ、食育活動を推進していく必要があるため。 | | | | |
| | | | | 平成29年度 | 長久手市食育推進支援会議を設置し、H29年12月に会議を開催した。 | 継続 | 長久手市の食育活動の進捗状況や課題について意見を仰ぎ、食育活動を推進していく必要があるため。 | | | | |
| | | | | 平成28年度 | 長久手市食育推進支援会議を設置し、H29年3月15日に会議を開催した。 | 改善 | 長久手市食育推進支援会議の役割が不明確である。支援会議の役割を明確にした上で、部会開催後に支援会議を開催する。 | | | | |
| 教育総務課 | ⑦農作業に触れる市民の割合の増加 ・農業体験をしたことのある子どもの割合 目標値……90.0%以上 H30 82.9% (小84.7%、中80.7%) R02 86.3% (小88.4%、中83.5%) | 令和2年度 | 市が洞小学校では、地域に学校農園を準備していただき、サツマイモの植え付けと収穫を体験させていただくとともに、普段の管理をお願いしている。 | 継続 | 教育現場への地域連携として、引き続きボランティアの方と連携した学校農園で体験する機会を設けていきたい。 | | 計画どおり実施し、目標を達成 | A | 継続して実施する。 | | |
| | | 令和元年度 | 市が洞小学校では、地域に学校農園を準備していただき、サツマイモの植え付けと収穫を体験させていただくとともに、普段の管理をお願いしている。 | 継続 | 教育現場への地域連携として、引き続きボランティアの方と連携した学校農園で体験する機会を設けていきたい。 | | | | | | |
| | | 平成30年度 | 市が洞小学校では、地域に学校農園を準備していただき、サツマイモの植え付けと収穫を体験させていただくとともに、普段の管理をお願いしている。 | 継続 | 教育現場への地域連携として、引き続きボランティアの方と連携した学校農園で体験する機会を設けていきたい。 | | | | | | |
| | | 平成29年度 | 北小学校では、保護者と地域のボランティアの方が、農園の草刈り、耕し、畝作り等を行っている。市が洞小学校では、地域に学校農園を準備していただき、サツマイモの植え付けと収穫を体験させていただくとともに、普段の管理をお願いしている。 | 継続 | 教育現場への地域連携として、引き続きボランティアの方と連携した学校農園で体験する機会を設けていきたい。 | | | | | | |
| | | 平成28年度 | 北小学校では、保護者と地域のボランティアの方が、農園の草刈り、耕し、畝作り等を行っている。市が洞小学校では、地域に学校農園を準備していただき、サツマイモの植え付けと収穫を体験させていただくとともに、普段の管理をお願いしている。 | 継続 | 引き続き地域のボランティアの方と連携した学校農園で体験する機会を設ける。 | | | | | | |

4-3. 食育推進のための啓発、情報提供

| 項目 | 概要 | 担当課 | 関連する数値目標実績 | 前年度(令和2年度)の取組実績と令和3年度実施方針 | | | 現行計画の実績と評価 | | | | |
|--------------------|--|---------|--|---------------------------|--|---------|--|--|--|--|-----------------------|
| | | | | 取組実績 (施策・事業の実施状況) | 令和3年度の 実施方針 | 左記の判断理由 | 連携している市民団体 | 過去5年度を振り返って 取組の成果と残された課題 | 評価 | 今後の方向性 (充実・改善の方向) | |
| ア 食の安全に関する情報提供及び啓発 | 「食育月間」と定める6月に広報紙、パンフレット、ホームページ、ケーブルテレビ等を通じた啓発活動を行います。 | みどりの推進課 | ⑪食育の推進に関わるボランティア数の増加 目標値……350人以上 H30 244人 R02 201人 | 令和2年度 | 食育月間について広報紙及び市ホームページで啓発を行った。また、食育月間に集中的に市内産青果物を出荷するよう、長久手給食食材生産会に呼びかけた。 | 継続 | 広報紙と市ホームページで不特定多数の方に食育月間について周知できたため。また、食育月間における「愛知を食へる学校給食の日」と連動した給食食材の提供ができたため。 | | 食育月間である6月に広報紙、HPによる啓発が出来ている。能動的な啓発方法も必要だと思う。 | B | 6月の食育月間に啓発イベントを実施したい。 |
| | | | | 令和元年度 | 食育月間について広報紙及び市ホームページで啓発を行った。また、食育月間に集中的に市内産青果物を出荷するよう、長久手給食食材生産会に呼びかけた。 | 継続 | 広報紙と市ホームページで不特定多数の方に食育月間について周知できたため。また、食育月間における「愛知を食へる学校給食の日」と連動した給食食材の提供ができたため。 | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 食育月間について広報紙及び市ホームページで啓発を行った。また、食育月間に集中的に市内産青果物を出荷するよう、長久手給食食材生産会に呼びかけた。 | 継続 | 広報紙と市ホームページで不特定多数の方に食育月間について周知できたため。また、食育月間における「愛知を食へる学校給食の日」と連動した給食食材の提供ができたため。 | | | | |
| | | | | 平成29年度 | 長久手市給食食材生産会から食育月間に集中的に市内産青果物を出荷するよう呼びかけた。また、食育月間について市ホームページで啓発を行った。 | 継続 | 食育月間における「愛知を食へる学校給食の日」と連動した給食食材の提供ができたため。また、市ホームページで不特定多数の方に食育月間について周知できたため。 | | | | |
| | | | | 平成28年度 | 長久手市給食食材生産会は毎月野菜を出荷しているが、食育月間には集中的に野菜を出荷するようにしている。また、「食育月間」の啓発に関しては未実施。 | 改善 | 引き続き、長久手市給食食材生産会から食育月間に集中的に野菜を出荷した。また、「食育月間」のホームページを作成し啓発を行った。 | | | | |
| | 「愛知を食へる学校給食の日」と連動し、給食センターの施設見学や学校給食の試食会など、食育の機会の提供に努めます。 | 給食センター | ①食育の関心の向上・食育に関心のある市民(保護者)の割合 目標値……90.0%以上 H30 95.4% R02 92.8% ⑨地元の農産物を購入する市民(保護者)の割合 目標値……50.0%以上 H30 31.0% R02 32.1% | 令和2年度 | 施設運営への理解と「食」について考える機会づくりとなるよう、市内在住・在勤・在学者を対象に、給食センターの施設見学及び学校給食の試食を行う会を実施した。「愛知を食へる学校給食の日」等と連動して開催した。【開催実績(○内は一般参加者数)】 見学試食会 R2 6/24(15人)中止(応募者0人)、11/12(6人)、1/25(7人) 学校給食日より「ながくての給食」を食育月間、学校給食週間などと時期合わせて年3回発行し、市内小中学校の児童生徒に配布した。 市ホームページで給食の献立レシピ紹介を1回行った。 | 継続 | 調理業務と平行して実施するため、試食つきの見学会は年3回程度の開催が限度だが、住民から試食がなくてもよいから気軽に参加できる機会の要望があり、学期ごとに機会を設けた。 施設見学だけの見学会の周知拡充。学校に協力を依頼し、児童の施設見学機会が増えるよう努める。家庭での食育機会のため、栄養士が食べてもらいたい献立や、給食づくりの紹介を行う。 | (取組の成果) ・施設運営への理解と「食」について考える機会づくりとなるよう、市内在住・在勤・在学者を対象に、給食センターの施設見学及び学校給食の試食を行う会を実施することができた。 (残された課題) ・市ホームページで給食の献立レシピ紹介を複数回行っていききたい。 | B | ・施設運営への理解と「食」について考える機会づくりとなるよう、今後も市内在住・在勤・在学者を対象に、給食センターの施設見学及び学校給食の試食を行う会を実施していきたい。 | |
| | | | | 令和元年度 | 施設運営への理解と「食」について考える機会づくりとなるよう、市内在住・在勤・在学者を対象に、給食センターの施設見学及び学校給食の試食を行う会を実施した。「愛知を食へる学校給食の日」等と連動して開催した。【開催実績(○内は一般参加者数)】 見学試食会 R1 6/28(15人)、11/27(20人)、1/30(17人) 学校給食日より「ながくての給食」を食育月間、学校給食週間などと時期合わせて年3回発行し、市内小中学校の児童生徒に配布した。 市ホームページで給食の献立レシピ紹介を3回行った。 | 継続 | 調理業務と平行して実施するため、試食つきの見学会は年3回程度の開催が限度だが、住民から試食がなくてもよいから気軽に参加できる機会の要望があり、学期ごとに機会を設けた。 施設見学だけの見学会の周知拡充。学校に協力を依頼し、児童の施設見学機会が増えるよう努める。家庭での食育機会のため、栄養士が食べてもらいたい献立や、給食づくりの紹介を行う。 | | | | |
| | | | | 平成30年度 | 施設運営への理解と「食」について考える機会づくりとなるよう、市内在住・在勤・在学者を対象に、給食センターの施設見学及び学校給食の試食を行う会を実施した。「愛知を食へる学校給食の日」等と連動して開催した。また、市民からの要望に応え、試食を伴わず気軽に参加できる見学会を新たに実施した。また、ホームページにアレルギー調理室での調理のようすを紹介した。【開催実績(○内は一般参加者数)】 見学試食会 H30 6/26(24人)、11/16(23人)、1/24(16人) 施設見学会 H30 5/30(3人)、10/16(1人) 学校給食日より「ながくての給食」を食育月間、学校給食週間などと時期合わせて年3回発行し、市内小中学校の児童生徒に配布した。 市ホームページで給食の献立レシピ紹介を2回行った。 | 改善 | 調理業務と平行して実施するため、試食つきの見学会は年3回程度の開催が限度だが、住民から試食がなくてもよいから気軽に参加できる機会の要望があり、学期ごとに機会を設けたところ、3学期の参加がなかったため。 施設見学だけの見学会の周知拡充。学校に協力を依頼し、児童の施設見学機会が増えるよう努める。家庭での食育機会のため、栄養士が食べてもらいたい献立や、給食づくりの紹介を行う。 | | | | |
| | | | | 平成29年度 | 施設運営への理解と「食」について考える機会づくりとなるよう、市内在住・在勤・在学者を対象に、給食センターの施設見学及び学校給食の試食を行う会を実施した。「愛知を食へる学校給食の日」等と連動して開催した。【開催実績(○内は一般参加者数)】 H29 6/12(20人)、11/16(23人)、1/25(14人) 学校給食日より「ながくての給食」を食育月間、学校給食週間などと時期合わせて年3回発行し、市内小中学校の児童生徒に配布した。 市ホームページで給食の献立レシピ紹介を2回行った。 | 充実 | 調理業務と平行して実施するため、試食つきの見学会は年3回程度の開催が限度だが、住民から試食がなくてもよいから気軽に参加できる機会の要望があったため。 施設見学だけの見学会の実施。学校に協力を依頼し、児童の施設見学機会が増えるよう努める。家庭での食育機会のため、栄養士が食べてもらいたい献立や、給食づくりの紹介を行う。 | | | | |
| | | | | 平成28年度 | 施設運営への理解と「食」について考える機会づくりとなるよう、市内在住・在勤・在学者を対象に、給食センターの施設見学及び学校給食の試食を行う会を実施した。「愛知を食へる学校給食の日」等と連動して開催した。 開催実績(○内は参加者数) H28 6/17(30人)、11/11(22人)、1/25(20人) (H27 6/19(30人)、11/20(29人)、1/25(中止)) 学校給食日より食育月間、学校給食週間などと時期合わせて年3回発行し、市内小中学校の児童生徒に配布した。 従前から行っている給食の献立レシピ紹介を市ホームページで行った。 | 継続 | 人気事業だが、調理業務と平行して実施するため年3回程度の開催が限度である。学校に施設見学を呼びかけ、平成28年度も給食センターが徒歩圏内の学校(長久手、東)の来訪があったが、適当な移動手段がないことが見学会が増えない一因と思われる。 引き続き、学校と連携し児童の施設見学機会を増やすなどし、食育機会を増やす。 人気献立のレシピの他、家庭での食育機会のため、栄養士が食べてもらいたい献立の紹介もしていく。 市内小学校PTAが特集で給食を取り上げた際、ホームページにレシピが掲載されていることについて紹介があった。 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----------------|--|---------|--|--------|---|----|-------------------------------|---|---|--|
| イ 食育に関する情報発信の充実 | 食育に関するアンケート調査の結果を踏まえた広報啓発活動を行います。 食育に関する施策や計画の進捗状況等を、広報紙などで情報提供します。 | みどりの推進課 | ⑨食育の推進に関わるボランティア数の増加 目標値……350人以上 H30 244人 R02 201人 | 令和2年度 | 引き続き「長久手市食育推進計画」策定時のアンケート結果を市ホームページで公表した。また、支援会議の会議録を公開した。 | 継続 | 市ホームページで不特定多数の方に情報提供できているため。 | アンケート結果の公表により、市民の食に関する現在の状況が分かるようになってきている。その課題や強みを活かした取組につなげていきたい。 | B | アンケート結果の分析から見えた課題について、イベント等を企画し、啓発したい。 |
| | | | | 令和元年度 | 引き続き「長久手市食育推進計画」策定時のアンケート結果を市ホームページで公表した。また、支援会議の会議録を公開した。 | 継続 | 市ホームページで不特定多数の方に情報提供できているため。 | | | |
| | | | | 平成30年度 | 引き続き「長久手市食育推進計画」策定時のアンケート結果を市ホームページで公表した。また、支援会議の会議録を公開した。 | 継続 | 市ホームページで不特定多数の方に情報提供できているため。 | | | |
| | | | | 平成29年度 | 引き続き「長久手市食育推進計画」策定時のアンケート結果を市ホームページで公表した。また、支援会議の会議録を公開した。 | 継続 | 市ホームページで不特定多数の方に情報提供できているため。 | | | |
| | | | | 平成28年度 | 引き続き「長久手市食育推進計画」策定時のアンケート結果をホームページで公表した。また、支援会議の会議録を公開した。 | 継続 | | | | |
| | フードドライブ・フードバンクの活動について情報提供します。 | 福祉課 | ⑩食を通じて環境に優しい暮らしに取り組む市民（保護者）の割合 目標値……50.0%以上 H30 67.0% R02 72.3% | 令和2年度 | 社会福祉協議会と共催により、家庭等で余っている食料品を募り、NPO法人セカンドハーベスト名古屋を通じて生活困窮者や世帯に届けるフードドライブ事業を実施した。 ・実施期間 令和2年10月27日～令和2年11月1日 ・受入れ先 市社会福祉協議会、各小学校区共生ステーション49人（社協窓口来所者のみ） ・寄贈者数 米類351.8キロ、缶詰127個、インスタント食品239個、調味料各種129個、乾物100個、飲料193個、お菓子130個 | 継続 | 平成29年度から実施した結果、ある程度の成果があったため。 | （取組の成果） ・社会福祉協議会と共催し、情報提供を行うことで、多くの市民に事業を周知することができた。 （残された課題） ・実施期間及び受入れ先の拡大 | C | 受入れ先として共生ステーション等を増やす。実施期間について、日数や実施回数を増やす。 |
| | | | | 令和元年度 | 社会福祉協議会と共催により、家庭等で余っている食料品を募り、NPO法人セカンドハーベスト名古屋を通じて生活困窮者や世帯に届けるフードドライブ事業を実施した。 ・実施期間 令和元年11月6日～10日 ・受入れ先 市社会福祉協議会 ・寄贈者数 63人 ・寄付食品 米類407キロ、缶詰37個、インスタント食品60個、調味料各種65個、乾物52個、飲料165個、お菓子194個 | 継続 | 平成29年度から実施した結果、ある程度の成果があったため。 | | | |
| | | | | 平成30年度 | 社会福祉協議会と共催により、家庭等で余っている食料品を募り、NPO法人セカンドハーベスト名古屋を通じて生活困窮者や世帯に届けるフードドライブ事業を実施した。 ・実施期間 平成30年11月6日～11日 ・受入れ先 市社会福祉協議会 ・寄贈者数 82人 ・寄付食品 米類366.3キロ、缶詰59個、インスタント食品118個、調味料各種132個、乾物89個、飲料177個、お菓子445個 | 継続 | 平成29年度から実施した結果、ある程度の成果があったため。 | | | |
| | | | | 平成29年度 | 社会福祉協議会と共催により、家庭等で余っている食料品を募り、NPO法人セカンドハーベスト名古屋を通じて生活困窮者や世帯に届けるフードドライブ事業を実施した。 ・実施期間 平成29年10月24日～29日 ・受入れ先 市社会福祉協議会 ・寄贈者数 79人 ・寄付食品 米類375.9キロ、缶詰101個、インスタント食品117個、調味料各種101個、乾物129個、飲料123個、お菓子120個 | 継続 | 平成29年度に実施した結果、ある程度の成果があったため。 | | | |
| | | | | 平成28年度 | (記載なし) | | | | | |